

令和6年度

精神障害者スポーツ大会開催事業 報告書

令和7年3月

公益社団法人 日本精神保健福祉連盟

目 次

はじめに（公社）日本精神保健福祉連盟 精神障がい者スポーツ推進委員会 高畑 隆	2
1. 第23回全国障害者スポーツ大会：団体：バレーボール（精神）	
ブロック大会予選会	13
1) 北海道・東北ブロック大会予選会、	2) 関東ブロック大会予選会
3) 北信越・東海ブロック大会予選会	4) 近畿ブロック大会予選会
5) 中部・四国ブロック大会予選会	6) 九州ブロック大会：全国障害者スポーツ大会リハーサル大会：
2. 第23回全国障害者スポーツ大会：SAGA 2024	
1) 個人競技：卓球（精神）	36
2) 団体競技：バレーボール（精神）	39
3. 資料	
1) 全スポチラシ	
2 手帳推進チラシ ②スポーツと精神障害 全体図	44
2) 第23回全国障害者スポーツ大会 団体：バレーボール（精神）ブロック大会結果一覧	47
3) 公益社団法人日本精神保健福祉連盟 精神障がい者スポーツ推進委員会名簿	48

はじめに

(公社)日本精神保健福祉連盟(以下、連盟)は、全国規模の精神保健福祉11団体(正会員)を中核に①精神保健福祉に関する調査研究、②精神障がい者スポーツの振興事業、③精神保健福祉全国大会(第71回平成6年栃木県、精神保健福祉事業功労者表彰、シンポジウム等)、④精神保健福祉に関する広報事業(「連盟だより」「広報誌」発行、連盟HPでの広報)、世界精神保健連盟(WFMH)との提携、⑤その他の活動を行っています。

連盟スポーツ推進委員会は、日本パラスポーツ協会のパラスポーツ競技団体協議会の精神統括競技団体です。スポーツ(精神)は(1)精神障害(疾患)のスポーツ競技団体、ソーシャルフットボール協会、ソーシャルバスケットボール協会等との協働で、スポーツ(精神)競技大会を推進しています。今年度は、ソーシャルフットボール協会と堺市でのJSFAアジア・フットボール競技大会(国際大会)で、第1回精神障害者スポーツアジアシンポジウム・会議を開催しました。

全国障害者スポーツ大会(以下、全スポ)は、障がい者の社会参加のスポーツの祭典(手帳所持、住民票のある都道府県・政令市からの参加)で、精神障がいの参加を推進しています。精神障害では、まだまだ全スポの理解不足が非常に多く見られます。全スポは、スポーツ団体の競技大会とは、根本的に異なります。連盟は選手・関係者向けに、全スポ理解への啓発用チラシを作成し、全スポ団体競技バレーボール(精神)ブロック大会等で配布し、連盟ホームページに掲載しました。

全スポは、障がい者の社会参加のスポーツ祭典です。個人競技では、都道府県・指定都市から選考会後に全スポに直接参加できます。全スポは社会参加の祭典なので、個人競技では、なるだけ新しい選手の参加を推進しています。全スポ個人競技では、選手全員になるだけ表彰とメダルが授与されます。団体競技は、全国6ブロックの代表が全スポに参加します。しかし、団体競技でもブロックや競技種目によっては、各都道府県・指定都市が順番に代表になる所もあります。

今年度は、第23回大会が佐賀県で開催されました。全スポ選手団人数は、総数五千人が上限です。各都道府県・指定都市選手団人数は、各都道府県・指定都市の手帳数で勘案されます。全スポの競技は個人7競技・団体7競技で、身体障がいと知的障がいの各1500名程度と各役員が参加します。精神では、個人1競技・団体1競技の200名弱の参加の現状です。これは、精神のスポーツ推進状況、精神のスポーツ競技団体が無い等の影響があると思われます。競技団体によるスポーツ大会があつてこそ、初めて全スポでの競技が位置づけられ、各競技団体が技術員派遣を行います。

現在、全スポ卓球(精神)、バレーボール(精神)は、スポーツ(精神)競技団体づくりが急務です。また、自分だけが良ければとの全スポ参加ではなく、1人が皆のために、皆が1人のために、スポーツマンシップ、応援や支援者がいてのスポーツです。スポーツ団体とスポーツ大会の理解が望まれます。この度は、ここに令和6年度スポーツ(精神)報告書を作成しました。全スポ後は、生涯スポーツや競技団体に進まれて全国大会、アジア大会等の国際大会につながると幸いです。

スポーツは、健康増進・体力づくり、予防・治療・リハビリテーション、仲間づくり・社会参加・就労、偏見等に様々な影響を与えられると思われます。スポーツ(精神)の推進では、環境整備、理解促進、スポーツ(精神)競技団体づくりに向け、皆様のご支援、ご協力を頂けると幸いです。

令和7年3月31日

(公社)日本精神保健福祉連盟 理事

精神障がい者スポーツ推進委員会 委員長 高畑 隆

1. 第23回全国障害者スポーツ大会:団体バレーボール(精神):6ブロック大会予選会

1) 全国障害者スポーツ大会:団体:バレーボール(精神)北海道・東北ブロック大会予選会

公益社団法人日本精神保健福祉連盟

理事・精神障害者スポーツ推進委員会委員長 高畑隆

1、大会参加都道府県・政令市

北海道:欠席

青森県:(AOMORI)選抜チームで黒の上下で背中にAOMORIとの文字が入る。今まで参加している選抜チーム。八戸市から青森市まで練習に参加者している選手もいる。ユニフォームには県名が入っている。

岩手県:欠席(参加予定だった:当事者が自主的に広域で集まるチームと思われる。)

宮城県:(OKAMOTO)上が黄色、下が黒のユニフォーム。肩には宮城の県名が入っている。

県大会の実施かは不明、長身の選手もいるが全体的に背が低い選手もいる

秋田県:(MIRAI)地域事業所の社会福祉・障害者施設チーム。上下白のユニフォーム。第1回大会から参加している施設チーム。ユニフォームにはチーム県と県名が入っている。背が高い長身が多い。

山形県:(MUDUREHA)チーム名ゆずりはは方言でここによせて。黒の上下で肩に赤のラインと山形県名が入っている。昨年の酒田市のチームは集まらなく、上山のチームで以前は参加していた今年参加となった。

福島県:(ハーモニー)上下黒(アシックスが入った)のユニフォームでビブスの着用である。県名は入っていない。

県の障害者スポーツ協会から言われて県内2チームで県大会を実施し、買ったので参加した。

札幌市:欠席

仙台市:地域事業所の社会福祉・障害者施設チームで、市内3か所にある作業所の福祉会チーム、通年の練習ではなくて大会3か月前から練習で15-6人が集まる。取れた場所で練習している。日常スポーツは週1回スポーツデイで体を動かしている。上黒・黒ビブス、下長ズボンで若い人が多い背の高いチームである。

2、監督者会議

福島県バレーボール協会総務、審判長、競技委員長、及び福島県スポーツ課課長、福島県バレーボール協会会長などが参加される。

熱中症の対策を十分に行い 給水を充分にとるようにしてください。タイムアウトの時に十分な給水をしてください。床が濡れた時は、各チームでチームのタオルや雑巾で拭いてください。モップは準備します。p4-5の大会について技術委員長から説明される。メンバー用紙の提出、男女混合で女子が1名以上コート内に参加。ボールはラリー中心で、手のひらでのアンダーパスはダメです。リベロ選手の参加は0か1名で、ビブスやユニフォームで違いが分かるようにする。岩手県が参加予定でしたが不参加で棄権となる。トーナメント表P6のAコート1と交流試合はナシです。試合の時間変更はしないでタイムスケジュール通りです。Cコートの練習での使用は、次の試合のチームは可能です。

選手番号を試合前に提出ください。応援のマスクは個人対応で行ってください、

飲食はアリーナの2階の観覧席で行ってください、ごみなどは各チームで持ち帰ってください。貴

重品は各チームで管理してください。全面的に禁煙です。

体育館は一般の利用者も利用しています。

3、試合経過

■第1試合 10時15分 B-1 試合 宮城県 対 秋田県

公式練習を秋田県からスタートする

第1セット：開始時はお互い荒い試合での対戦となり、接戦である。宮城県は、時にサーブミスがでたりする。

秋田県は、落ちるサーブ等や応援の声援が強いなり、アタックが決まりだして、徐々に宮城県を引き離す。

宮城県は、アンダーパスを取られたりする。宮城県が休憩タイムをとる。秋田県は、タイム後に円陣を組んで声出しなどで、団結力を盛り上げる。そして、サービスエース、アタックが決まりだす。

宮城県選手は、選手交代時に慣れていないで、背中の番号の明示が明確に行われなく、番号チェックが遅れる。秋田県は、応援が大きくなり宮城県を引き離す。宮城県はアタックが乱れる。

秋田県が9対25で勝つと、選手みんな拍手する。

第2セット：秋田県は、1セットの中盤からは落ち着いた一メーションの試合となっていて、2セット開始時も継続して、落ち着いた試合運びになる。時にはラリーになる時もあるが、秋田が落ちるサーブ、アタック、バックスで点数を決めていき、徐々に宮城県を引き離していく。宮城県は、パス回数でのオーバー、アンダーパスで失点となる。秋田県は、後半でアタックが決まり、落ちるサーブなどで宮城県を引き離す。宮城県は、力が入りすぎてサーブミスなど、ミスが目立つはじめる。第2セットは7対25で秋田県が勝つ。

試合結果は、0対2で秋田県が勝ち上がる

■第2試合 A-2 11時15分 山形県対 福島県

第1セット：山形県は大きな応援がある。福島県は得点版などの補助員で来ている地元の女子中学生（若松一中？）が応援している。山形県は試合開始から乱れやすく、バレーボールの基本があまりできていないがムードメーカーがいて声出しをして、乱れながらも試合を続ける。福島県もバレーボールの基本があまりできていなく、フォーメーションなどはない。マスク着用選手が3名いて、声出しもなく試合をしている。接戦が続いていく。

山形県は少し慣れたのか3回パスしてアタックが決まる。少し基本的な体制ができてくる。アタックもあり、ネット前でのブロックポーズなども出るようになす。

福島県は、強いサーブを打ったりするが、時にアタックで自滅するときもある。途中で選手交代をする。山形県は大応援団があり、タイムを取ったりする。お互いに打ち合いが続くと基本の体制が乱れて、個人プレー的な動きが多い試合展開となる。接戦が続くが後半は福島県が山形県を徐々に突き放して行く。第1セットは 山形18対福島25で福島県が勝つ。お互いに基礎練習がまだまだの状況で、試合に慣れていない選手傾向と思われる。コート移動では、主審に指示されて選手移動を実施している。

第2セット：開始時には山形県の応援が大きくなる。試合は開始当初から接戦で進む。福島県はマスク着用3名の選手がいて試合を行っていて、よく拾っている。山形県はアタックが決まる時と、力が入り

すぎてミスする時があり、ボールを選手が互いに見合ってしまう時もある。福島県はアタックが決まる時がある。中盤でも接戦が続くが、福島県が少し引き離している。山形県がタイムをとって福島県を追い上げ、接戦を制する。第2セットは、山形県25対福島県23で山形県が勝ち第3セットにもつれ込む。

第3セット：山形県の応援団の声援は一段と大きくなる。福島県も地元の補助員などの中学生の応援が大きくなる。福島県の選手はマスク着用者が3名いる。

試合初版は接戦が続く、互いに強いアタックやサーブがみられる。時に山形県が、ネットタッチなどのミスもある。福島県もサーブミスがでたりするが、味方が拍手して仲間を応援する。女子では落ちるサーブをする方もいるが、サーブミス見られる。福島県が少し先行する。シーソーゲームとなるが、中盤になって徐々に福島県が山形県を引き離す。山形県は、強いサーブやアタックが決まったり、タイムを上手にとったりする。

コート交代では、両チームともコート交代を主審から指導されてる。両チーム共にバレーの基礎や試合慣れをあまりしていない。

山形県が大きな応援で頑張るが、時にボールを選手がお見合いしてしまったり、アタックミスがあったりする。

福島県が徐々に引き離されていく、相手の動きを見てネット際でボールを軽く入れたりする。第3セットは 山形県15対25で福島県が勝ちあがる。 山形県チームは応援団の前に並んで挨拶している。試合結果は、1対2で福島県が勝つ。

■ 12時50分 A-3 試合 青森県対福島県

青森県は、練習から乗っていて声がよく出ていて、走るのも軽やかで動きが良い、ランニングアタック、高いサーブを行っている。皆で円陣になり声出しからスタートする。

第1セット：青森は3名のアタッカーが強いアタックで試合を進める。また、強いサーブで当初から福島県を引き離す。福島県はよく拾うがすぐにタイムをとる。青森県も応援があり声がよく通っている。軽快な動きと声出しもよく、パワーが強くアタックが決まる。福島県は当初から引き離されて行き、ミスも目立つ時がある。途中からは練習試合的な様相になる。第1セットは青森県が25対6で福島県に勝つ

第2セット：青森県が当初から福島県を引き離していくが時に青森県もサーブミスなどある。福島県も盛り返すが、青森県のアタックが決まりだし、福島県がサーブミスなどで引き離される。青森県のアタックに福島県もブロックするがサーブミス、ボールを選手がお見合いしたりする。中盤では青森県が引き離して行くが、時にサーブミスもある。福島県はよく拾うが引き離されていく。 第2セットは青森県25対福島県11で、青森県が勝つ。 対戦結果は2対0で青森県が勝ち上がる。

■ 12時30分 B-3 試合 仙台市 対 秋田県

第1セット：仙台市は第1試合である。お互い地域の事業所のチームである。

仙台市は若い人が多い背の高いチームで、若さの速いスピードで試合を進める。立ち上がりが高く、秋田に先行する。秋田は基本を忠実に行ってブロック2枚で動きも良く声出しして応戦する。少し引き離されてタイムをとって、仙台市に追いつく。中盤では秋田県が盛り返して先行する。仙台も応援があり

タイムをとってテンポをつかもうとする。チームプレーで若いスピードとパワーがあるが、時にミスが出て雑になる。秋田県は着実にプレーを行いアタック、ランニングサービス、声出して、応援を受けて中盤からは仙台市を引き離す。第1セットは仙台市15対秋田県25で、秋田県が勝つ。

第2セット；仙台市は若いパワーとスピードの試合であるが、やや個人プレー的な傾向もある。仙台市が先行する。中盤ではもつれ合って仙台市のチームプレーが乱れるなどや若い力での強すぎるパワーやサービスが見られる。秋田県はサーブミス、ネットタッチもあるが声出して丁寧な試合運びで、後半に向けては徐々に仙台市を引き離す。第2セットは仙台市19対秋田県25で秋田県が勝つ。 対戦結果は、0対2で秋田県が勝つ。

■ 14時30分 A-4 決勝戦 青森県対秋田県

第1セット：決勝戦では、青森県がユニフォームを着替えて黒の上下になる。秋田県も着替えて上が赤で下が 黒のユニフォームになる。お互いによい動きでチームプレーの試合運びとなる。秋田県は応援が大きくなる。お互いにアタックの応酬で激しい接戦となる。お互いに試合進行上、ここでと思う時にタイムをとって試合の流れを取ろうとする。中盤からは青森県が秋田県を引き離していく。秋田県の応援が一層大きくなる盛り上げる。第1セットは青森県が25対秋田県14と青森県が勝つ。

長年のライバルなのでコート・チェンジ時にはお互いを拍手しタッチして笑顔でコート・チェンジを行っている

第2セット；秋田県は立ち上がり良くアタックなどが決まる。青森県がランニングサービス、アタックを繰り出し、フォーメーションを縦型にしたりして、強いアタック攻撃をする。セット開始時から接戦が続く。お互いにアタック攻撃、ブロックでのディフェンスなどで激しい接戦となる。後半は少し秋田県が青森県を引き離す。秋田県も青森県も試合の流れのタイミングを見て良いタイムをとる。秋田県の追い上げが及ばず、青森県が25対秋田県21で、青森県が勝つ。 対戦結果は青森県が2対0で秋田県に勝つ

■ 14時30分 B-4 三位決定戦 仙台市対福島県

第1セット；両チームともに前の試合とユニフォームの変更はない。仙台市は上が黒のビブスで下は長ズボン、福島県はビブス着用でマスク使用者が3名いる。当初接戦が続いき、中盤まで同じ状況である。お互いにボールに集まりやすく、ネット際に選手が集まりやすい。中盤では仙台市が引き離し始めて、そのまま試合に勝つ。仙台市25対福島県18で仙台市が勝つ。

第2セット：仙台市は若いパワーとスピードでのアタックで粗削りであるが点数を加えて行く先行する。福島県もよく拾って、時にブロックで返していき、地元の大きな応援が背中を押している。仙台市が引き離して差を広げていく。 第2セットは仙台市が25対10で福島県に勝つ
仙台市2対0で勝つ

3. 大会結果

優勝 青森県
準優勝 秋田県
三位 仙台市

4. 大会感想

猪苗代湖からは少し離れて、磐梯山がすぐ後ろにある公園の中の会場での開催である。体育館は、猪苗代町の旧市街にあり、町役場にも近い猪苗代城跡、鶴峰城跡の亀ヶ城と呼ばれている公園内である。この広い亀ヶ城公園の中にある体育館で北海道・東北ブロック大会が開催された。大会の会場は猪苗代町総合体育館「カメリーナ」である。天気が良ければ市民の憩いの場となる広い公園内にある。この体育館はかなり大きくてバレーボールコート3面がゆったりとれ、観客席も広くある。主催の福島県障害者スポーツ協会は、福島県文化スポーツ局スポーツ課と同じ場所にある。福島県障害者スポーツ協会のスタッフは3名で兼務3名のようなようである。同様の形式は兵庫県があるようである。福島県バレーボール協会の協力での開催である。1日の開催で朝早くから各県・市が参加しての開催である。地域的にも距離的にもかなり広範囲の県の参加である。従って、北海道と札幌市は海を越えて参加するので、交通のアクセスや旅費からか今回の大会には参加していない。岩手県は登録時には参加予定であったが、大会参加の直前に不参加となっている。試合が組まれていたので岩手県の対戦は棄権となっている。雨の中での大会開催である。大型バスで来ているチームは開場前にすでに到着しているチームが多く見られた。体育館会内には市民がトレーニングに来られている。

【大会資料】

■第23回全国障害者スポーツ大会 バレーボール競技（精神障がい者の部） 北海道・東北ブロック予選会

大会次第

8:50	受付開始
9:10	監督会議
9:40	選手団整列
9:45	開会式 主催者あいさつ 福島県文化スポーツ局スポーツ課長 橋本哲哉 競技場注意 福島県バレーボール協会 選手宣誓 福島県チーム 選手 事務連絡 事務局
10:15	競技開始
15:45	閉会式 成績発表・表彰 講評 福島県バレーボール協会 審判長 主催者あいさつ 福島県文化スポーツ局スポーツ課長 橋本哲哉
16:00	全日程終了

■第23回全国障害者スポーツ大会 バレーボール競技（精神障がい者の部） 北海道・東北ブロック予選会 実施要項

1 目的 この大会は、第23回全国障害者スポーツ大会に出場する北海道・東北ブロック代表チームを決定するとともに、スポーツを通じた心身の健全な成長と、社会参加の推進を図ることを目的とする。

- 2 主催 福島県、公益財団法人福島県障がい者スポーツ協会
3 主管 福島県バレーボール協会
4 協力 福島県障がい者スポーツ指導者協議会
5 後援 猪苗代町
6 期日 令和6年6月23日(日) 午前8時40分 受付開始 午前9時40分 開会式
7 会場 猪苗代町総合体育館「カメリーナ」メインアリーナ (福島県耶麻郡猪苗代町字鶴田 141-2 電話 0242-72-1534)

8 参加資格

- (1) 参加選手は次の全ての条件を満たす者とする。① 年齢は、令和6年4月1日現在で13歳以上とする。② 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(昭和25年法律第123号)第45条により、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた者。あるいは、その取得の対象に準ずる障がいのある者(自立支援医療(精神通院)受給者証の取得者)。③ 申し込み時に参加する道県・指定都市内に現住所(住民票のある地)を有する者。ただし、学校に通学している者及び施設に入所・通所している者は、その学校及び施設の所在地の道県・指定都市でも参加できるものとする。
- (2) 参加するチームは、ブロック内の道県・指定都市の代表1チームとする。

9 競技規則

適用する競技規則は、(公財)日本パラスポーツ協会制定「全国障害者スポーツ大会競技規則」及び本大会競技実施要領とする。

11 表彰

1位から3位までに入賞したチームに賞状とトロフィーを授与する。

12 健康・安全管理

大会出場にあたっては、事前に医師の診断を受けるなど、自己の責任において健康及び安全に十分留意すること。なお、主催者においては、応急処置を行う以外には責任を負わないものとする。(各チームは傷害保険等に加入して参加すること)

13 参加料・参加費用

参加料は徴収しない。また、参加に要する経費については自己負担とする。

14 宿泊及び昼食

宿泊及び弁当の斡旋については行わない。

15 監督会議

監督会議は大会当日の競技開始前に行う。

16 全国障害者スポーツ大会への派遣

全国大会への派遣は、本大会の優勝チームとする。ただし、優勝チームが辞退した場合は、順次、順位の上位チームとする。

*大会事務局 公益財団法人福島県障がい者スポーツ協会 (福島県スポーツ課内) 住所 〒960-8670 福島県福島市杉妻町 2-16 電話 024-521-7875 F A X 024-521-787

■第23回全国障害者スポーツ大会 バレーボール競技（精神障がい者の部）

北海道・東北ブロック予選会 実施要領

1 競技規則

全国障害者スポーツ大会競技規則（公益財団法人日本パラスポーツ協会制定）によるもののほか、この要領に定めるところによる。

2 チーム

チーム構成は、監督1名、コーチ1名、マネージャー1名、選手12名以内とし、男女混合で構成する。

3 競技方法

(1) 試合はトーナメント形式とし、3位決定戦及び交流戦（検討中）を実施する。

(2) ネットの高さは2m24cmとする。

(3) 試合は25点のラリーポイント制3セットマッチとし、2セットを先取したチームを勝者とする。なお、得点が24対24になった場合、それ以降は2点リードしたチームがそのセットの勝者とする。

(4) 第3セットは、いずれかのチームが13点を先取した時にコート・チェンジを行う。

(5) 試合は男女混合とし、試合中は常時1名以上の女性プレイヤーが出場していなければならない。

(6) 手のひらを上に広げてのアンダーパスは原則として認めない。

(7) サービス後のポジションの移動は、競技規則に従うものとする。

(8) リベロプレイヤーの登録は、1名もしくは登録なしとする。それぞれのチームには、1セットにつき最大2回のタイムアウト（1回30秒）と6回の選手交代が認められる（監督あるいはゲームキャプテンのみが要求できる）。

(9) スターティング・ラインアップの選手は、交代によりコートを離れることができ、また1セットにつき1度だけスターティング・ラインアップの元のポジションに戻るることができる。選手交代は、交代競技者が選手交代ゾーンに入った時に認められる。（クイックサブスティテューション）

(10) 試合はワンボールシステムで行う。

(11) その他、監督者会議で申し合わせ事項を設けることができる。

4 競技者の服装

(1) チームユニフォームを着用すること。なお、背番号は1番から12番までにすることが望ましい。(2) 背番号はビブス等の着用による代用を認める。(3) リベロについては、ユニフォーム着用の場合は、ユニフォームの色（濃淡）を変えるかビブスを着用する。ビブス着用の場合は、他の選手と違う色のビブスを着用すること（ビブス着用の際は、「L」の文字があるものを着用すること）。

5 試合球

日本ソフトバレーボール連盟公認球ソフトバレーボール球・糸巻きタイプ（モルテン 製円周78±1cm、重量210g±10g）を用いるものとする。

6 組み合わせ

本大会の組み合わせは、主催者が大会前に代理抽選をし、各チームに通知する。

7 その他

(1) 監督、コーチ、マネージャーは左胸部に規定のマークを必ずつけること。未装着の場合、ベンチの立ち入りを制限する。(2) コート内には、監督・コーチ・マネージャー、競技者以外は入場することができない。ただし、緊急を要する場合に限り、主催者の判断で入場を認める場合がある。

■第23回全国障害者スポーツ大会バレーボール競技（精神障がい者の部）

- 1、北海道・東北ブロック大会 対戦表省略
- 2、対戦時間表
Aコート Bコート省略

*開始時間はあくまで目安です

*各チームの初戦の時だけ5分間の合同練習を行い、その後プロトコールに入ります。

■大会参加にあたっての留意点

- 1 受付は8時50分から行います。各選手団の代表者が行ってください。
- 2 監督会議は9時10分から審判員控室で行います。各チームの監督は必ず出席するようお願いいたします。
- 3 出場する選手は、申込時に記入した番号を記載したゼッケンを必ず付けてください。
- 4 試合球は「モルテン製S3Y1500」を使用します。
- 5 選手等の方の待機所（飲食）は2階観覧席です。当日は一般の利用者の方もおられますので、マナーを守った行動をお願いします。
- 6 応援は2階観覧席でお願いします。
- 7 館内は土足厳禁ですので、室内用運動靴に履き替えてください。また、着替をする場合は館内更衣室で行ってください。
- 8 貴重品は体育館備付けのコインロッカーを利用するか、各自で責任を持って管理してください。
- 9 敷地内は全面禁煙です。喫煙はご遠慮ください。
- 10 施設利用に伴うゴミ等については施設内や近隣に破棄せず、各自責任を持ってお持ち帰りください。
- 12 救護については応急処置のみとなりますので、怪我等に備えて保険証等の準備をお願いします。

【近隣の医療機関】猪苗代町立猪苗代病院 〒969-3121 福島県耶麻郡猪苗代町梨木西65（電話）0242-62-2350

■猪苗代町総合体育館「カメリーナ」館内図省略

■猪苗代町総合体育館「カメリーナ」への案内図地図省略

〒969-3123 福島県耶麻郡猪苗代町字鶴田141-2 猪苗代町総合体育館「カメリーナ」

◆JR磐越西線「猪苗代駅」下車 徒歩20分 ◆磐越自動車道「猪苗代磐梯高原IC」から8分

■登録役員・選手名簿

都道府県・政令市都市別 一覧表

区分 番号等 氏名 性別省略



【北海道東北ブロック 写真】

2) 令和6年度全国精神障害者スポーツ大会・団体バレーボール（精神）

関東ブロック予選会 報告

報告年月日： 令和6年10月17日

報告者所属・氏名： 一般社団法人 精神障害者地域生活支援とうきょう会議 瀬川 聖美

1. 大会概要

- 1) 大会正式名称： 第23回全国障害者スポーツ大会「SAGA2024」バレーボール競技
(精神障害部門) 関東ブロック予選会
- 2) 大会開催日時： 令和6年5月12日(日) 9:20~17:30
- 3) 大会開催場所： ALSOK ぐんまアリーナ(ALSOK ぐんま総合スポーツセンター内)
群馬県前橋市関根町 800
- 4) 主催： 公益財団法人 日本パラスポーツ協会
公益社団法人 日本精神保健福祉連盟
群馬県
一般社団法人 群馬県パラスポーツ協会
主管： 群馬県ソフトバレーボール連盟
後援： 群馬県精神保健福祉協会 日本精神科病院協会群馬県支部
日本精神科看護協会群馬県支部 群馬県精神障害者社会復帰協議
会
群馬県精神障害者家族会連合会
- 5) 参加都道府県数： 6都道府県 3政令指定都市 9チーム
- 6) 参加チーム名： 栃木県 埼玉県 千葉県 神奈川県 山梨県
千葉県 横浜市 相模原市 東京都
※埼玉県、神奈川県、東京都は選抜チーム。相模原市は選抜としてスタートしたばかり。他は単体の事業所や医療デイケアクラブチームのようであった。
- 7) 参加者合計： 260名(選手及び監督等160名、観客数約70名、審判及び大会関係者約30名)

2. 競技会状況・試合の進捗状況

今回は群馬県にて開催されたが残念なことに群馬県は不参加であった。それでも開催して頂き、感謝したい。

長らく関東ブロックは横浜市、埼玉県、東京都の3強時代が続いているが、昨年からは元横浜市

の舞岡病院デイケアチームからクラブチームになり、神奈川県代表として出場。

普段から千葉県、千葉市チームも含め練習を合同で行うことも多く、手の内はわかっている状況であった。

1回戦で強豪埼玉県と横浜市が激突。横浜市が2セット先取で勝利。その後も神奈川県を2セット先取して決勝へ。東京都も相模原市、千葉市を2セット先取して順調に決勝へ進出。決勝は3年連続の横浜市と東京都となった。横浜市はミスが少なく女子選手のセッターが安定したトスを上げ2セット先取で優勝を勝ち取った。

今回は交流戦の千葉市対栃木県線以外はすべて2セットで決着がつき順調な大会運営であった。

3. 大会の結果

- | | |
|------|----------------------------|
| ①優勝 | 横浜市(チームさいとう・さいとうクリニックデイケア) |
| ②準優勝 | 東京都(都選抜チーム) |
| ③第3位 | 神奈川県(クラブチーム) |

4. 全体の感想など

東京都チームの帯同であったため、東京都以外の試合はほとんど見る事ができなかった。

応援についてはまだチーム名応援もあるが、

関東ブロック大会は出場チームが比較的多い方であると思うが、2028年度の全国障害者スポーツ大会に向けて早く群馬県チームに参加してもらいたい。



【関東ブロック 写真】

3) 第23回全国障害者スポーツ大会 SAGA2024 大会団体バレーボール(精神)

北信越・東海ブロック予選会 バレーボール競技(精神障害の部)

公益社団法人日本精神保健福祉連盟

理事・精神障害者スポーツ推進委員会委員長 高畑隆

1. 参加都道府県

新潟県(PEACE)は、当事者が地域で集まって練習しているチームのようである。オレンジのユニフォームで短パン黒、長身の選手も2名・それに近い方が2名。

長野県(Rainbow)は、地域事業所の社会福祉・障害者施設チーム、週1回練習していて、何度か大会に参加している

富山県：不参加

石川県(高松ファイターズ) 黒に赤の入ったユニフォームで、黒い短パン。身長がやや高い選手は4名ほどいる。

福井県(レッドサンズ)は、当事者中心に活動する地域のチームで、当事者自身が活動を担っている。昨年の全国大会優勝チームしている。監督はバレーボールの監督である。オープン競技大会を福井県で開催している。従って、全スポはスポーツの祭典なので、全スポとは別にクラブチームの全国規模での競技大会・組織づくりを行い、バレーボール(精神)の国際競技大会ができればとの夢を持っている。

静岡県：不参加

岐阜県(岐阜県選抜)は、当事者が地域で集まって練習する混成チームの岐阜県選抜チーム。長身の選手が数人いる。白のユニフォームに赤の短パンで監督が女性。県の障害者スポーツ協会のかたも支援しているので観戦されている。

愛知県(スマイル) 青のユニフォームで下が黒の短パン。

三重県(Studiopeer チューズdayず)は、地域事業所の社会福祉・障害者施設チーム。赤系のオレンジのユニフォームで、青い短パン。長身の選手はあまりいない。監督はバレーボール監督で、非常に熱心にバレーボールを推進されている方である。

新潟市：不参加

静岡市(若葉サークル) オレンジに近い赤のユニフォームとしたが黒の短パン

浜松市：不参加

名古屋市(サーティン)は、地域で当事者中心に活動するチームである。黄色と黒のユニフォームで、短パン黒、長身の選手が1名いる。毎回ブロック代表に参加していて、全国大会にも参加しているチームである。各地のチームとも連携・協働して、各地でのオープン競技大会を開催している。障害者のスポーツ祭典・全スポとは別に、このオープン競技大会等を中心に、全国組織を作ってバレーボール(精神)競技大会を開催して、できればイタリアとの国際競技大会を夢見ている。ホームページで全国に活動を発信している。

2. 監督者会議

試合進行時間は、繰り上げをしないで予定時間で進行する。ホイッスル時間で開始、6分前に公式練習を開始する。試合球が予定のボールでなかったので(メーカー名が異なる)福井県の予備のボールを正式サイズに膨らませて試合球として使用する。

対戦表は昨年の1位を考慮したが、2位の振り分けがそのままであった。2位を別の組での検討が必要だったのでは。

猛暑ですが空調・冷房がないので、暑さ対策として給水タイムを設定する。13点で1回給水タイムを30秒入れる。ベンチラインの後ろで給水。給水時には選手が動いてOKで、控えの選手が対応するなど、スタッフ以外が誘導すること。スタッフ・マネージャーは動かない。3セット目の給水は、チェンジの時に給水してコートに入る。

アップは、試合中は2Fランニングコートで実施する。アップの運動でのボール使用はできない。試合と試合の間の20分間はコートを使用してもよい。

エントリー用紙は2枚配布し、番号の変更等はこの場で変更して用紙を提出してください。

食事は、各自の観客席で可能です。救護室は1Fの1室としますが、何かの時は本部に声をかけてください。

審判部長：団体6人制バレーボールのルールで実施する。ロングサーブは普通にとる。

3. 試合経過

1日目：6月8日（土曜） 13時から試合開始～17:10 試合補助員は小松高等学校の学生さん

■第1試合 13:00～14:10

A① 名古屋市（サーティン）対 新潟県（PEACE）

第1セット：新潟県はバレーボールの基本を丁寧に、試合を行っている。名古屋市は新潟県を徐々に引き離していく。時にアタックが決まらない事などもあり、接戦になり、アタックを良くひろっている。給水タイム後には名古屋市が少し引き離していき、徐々に名古屋市が新潟県を引き離す。 25対13で名古屋市が勝つ

第2セット：当初は新潟県も良い試合展開をしていくが、徐々に名古屋市が引き離していき、丁寧にボールをつなぐ名古屋市が新潟県を引き離す。15対7で名古屋市が勝つ。対戦結果は2対2で名古屋市が勝ちあがる。

B①石川県（高松ファイターズ）対 三重県（Studiopeer チュースず day ず）

第1セット：立ち上がりから三重県が石川県を引き離していき、三重県が点数を重ねる。石川県もランニングサービスをしたりするが、三重県は体形が乱れずにポジションをキープして対戦する。三重県は徐々に点数を引きはなしていく。10対25で三重県が勝つ。

第2セット：三重県はよく相手を見て試合に対応している、石川県は体制が乱れやすくミスが目立つ。三重県が石川県を突き放していく。7対25で三重県が勝つ。 対戦結果は、0対2で三重県が勝ちあがる

三重県の指導者はバレーボールの指導者が行っていて、三重県の選手は体育館から出る時には、体育館の中に向かって挨拶してから体育館を退場していく、バレーボールの礼儀を選手が丁寧にやっている。

■第2試合 14:30～15:40

A②長野県（Rainbow絆）対 愛知県（スマイル）

第1セット：愛知県は粗削りでの試合進行で、立ち上がりは接戦となって、お互いに乱れる試合展開になる。愛知はバックス、交代の仕方、セットの位置などが違っていて審判から指導をされる。長野県は長身もいるフォーメーションが安定しているが対戦での接戦が続く。最後は25対15で長野県が勝つ。

第2セット：愛知県も選手が頑張って試合を進める。長野県の勢いは、第1セット当初ほどのパワーがなく進行する。途中で男性選手の足がつり、会場で医療スタッフが対応、その後、車いすで移動して会場からリタイアする（しばらくして戻る）。長野県はパワーが少しなくなるなど、持久力の課題、ムードメーカーがない等があるのか。長野県は中盤から一定のパワーが戻り、愛知県を引き離す。長野県は25対21で勝つ。

対戦結果は2対0で、長野県が勝ちあがる。

B② 岐阜県（岐阜県選抜） 対 静岡市（若葉サークル）

第1セット：当初は静岡市が引き離していく。岐阜県は長身の選手もいてセットプレー、フォーメーション等の基礎動作を大切に行うが、引き離される。時にはボールを2人で見合ってしまったりするなど、見過ごすこともあって、徐々に引き離されている。14対25で静岡市が勝つ

第2セット：当初は良い試合であったが、徐々に静岡市が岐阜県選抜を引き離し、持久力で静岡市が25対13で勝ちあがる。試合結果は2対0で、静岡市が勝ちあがる

■第3試合 16:10-17:10 一試合のみ

A③ 福井県（レッドサンズ） 対 名古屋市（勝ち上がった昨年2位のサーティン）

福井県はシードとなっていて、昨年ブロック大会1位で全国大会に参加して優勝のチームである。名古屋市は昨年ブロック大会2位のチームで、以前は全国大会によく出場するチームで、今回は第1試合で勝ちあがってきたチームである。例年ブロック大会では、お互いに競争相手のチームである。今回の優勝戦ともいえる試合で、決勝戦的な様相の福井県と名古屋市の対戦になる。お互いに勢いがあって、よく声が出ている。また、お互いのチームは、練習試合などで相手をよく知っている。

第1セット：初版から激しい戦いになり、お互いにサービスエース、アタック、ブロックと接戦が続いていく。中盤から後半は名古屋市を福井県が引き離していく、福井県は終盤に選手交代をする。25対15で福井県が勝つ

第2セット：お互いよく動き、声も出ている。ランニングサーブ、バックアタック、強烈なスパイク、落ちるサーブ、バックトスなど多彩な対戦となっている。中盤からは福井県が名古屋市を引き離しはじめ、終盤には福井県が勝っていて選手交代をする。福井県が25対14で勝つ。対戦結果は2対0で福井県が勝上がる

★2日目 開場 7時30分～

朝早くからアリーナを開けていただいて練習が可能となっている。2日目はチームによっては、新しいユニフォームになって試合に参加している。

■第4試合：準決勝 9:00-10:10

A④ 福井県（レッドサンズ） 対 三重県（Studiopeer チュースず day ず）

福井県、三重県ともに監督はバレーボールの審判員でお互いによく知っているチーム同士の対戦である。

第1セット：福井県はリベロ選手が参加している。両チームともにバレーボールの基礎ができているチームである。アタック、ブロックを行い、丁寧な戦い、中盤までは接戦が続いている。福井県に若干引き離せれるが中盤で三重県が追い上げる。そして、後半になるに従って福井県が三重県を引き離していく。終り頃には福井県は選手交代を行っている。第1セットは25対16で福井県が勝つ。

第2セット：お互いに円陣を組んで声を出して試合を開始する。お互いによく声が出ている。福井県は

一時女子2名で対戦する。立ち上がりは接戦が続き、お互いに強烈なアタックやブロック、ランニングサービス、バックアタックなどで対戦する。対戦は盛り上がりを見せる接戦が続く、時に三重県がサーブミスなどもあるが、終盤では少しずつ福井県が引き離している。最終盤には福井県が選手交代を行っている。第2セットは25対12で福井県が勝つ。対戦結果2対0で福井県が勝上がる。

B③ B長野県 (Rainbow絆) 対 静岡市 (若葉サークル)

長野県は前日とユニフォームを変えている。静岡市は前日と同じユニフォームである。

第1セット：当初から長野県が静岡県を引き離していく。長野県はランニングサービス、サービスエースがきまる。静岡市がよく拾うが徐々に話されてって、第1セットは25対16で長野県が勝つ。

第2セット：最初は静岡市がリードする。長野県の第2セットは立ち上がりが遅く、ミスが続き引き離される。チームで円陣を組み、声出しなどを行って頑張る。中盤では長野県が静岡市に追いつく。中盤では接戦が続き、終盤にもつれ込む。終盤では長野県が僅差で静岡市を引き離し、25対27で長野県が勝つ。対戦結果は2対0で長野県が勝上がる。

■第5試合;優勝戦

A⑤ 長野県 (Rainbow絆) 対 福井県 (レッドサンズ)

福井県はリベロ選手がいる。両チームともに長身の選手が数名いる。

第1セット：長野県は立ち上がりが良くバックスなどを行ったりする。福井県は強烈なアタックなどを行うが時々ミスが目立つ。前半では接戦が続き、中盤でも接戦が続く。中盤から徐々に福井県が長野県を引き離していき、最終盤では福井県が選手交代を行っている。第1セットが15対21で福井県が勝つ。

第2セット：初版は接戦であるが、徐々に強烈なアタック、サービスエースなどで福井県が長野県を引き離る。最終盤では、福井県が選手交代を行い10対25で福井県が勝つ。対戦結果は0対2で福井県が優勝する

B④ 3位決定戦 静岡市 (若葉サークル) 対 三重県 (Studiopeer チューズday)

第1セット：静岡市は丁寧にボールを拾おうとするがチームが乱れやすい。三重県はよく声を出してバレーボールの基本で、丁寧なトスや強いアタックで攻撃する。当初から三重県が静岡市を引き離していき、動きも良く練習試合のような様相を呈して、3対25で三重県が勝つ。

第2セット：静岡市は立ち上がりがよく、三重県を引き離して行く。中盤では静岡市がよくねばり、時には足でけり上げたりもするなど、ボールに何とか食らいつく。中盤では、三重県はよく声を出し、徐々に巻き返し、追い上げて混戦となる、後半戦では徐々に三重県が盛り返して、静岡市を引き離していく。そして、終盤では混戦状態となる。2セットの結果は23対25で三重県が勝つ。対戦結果は0対2で三重県が勝って3位となる。

4、試合結果

優勝 福井県

準優勝 長野県

三位 三重県

5 大会等の感想

能登半島地震が1月に起きて、当初は金沢市内の体育館でブロック大会の実施予定であった。体育館が2次避難所となって、現在でも体育館として使用できない状況である。そこで、新しい会場を急遽、探すこととなった。高校（高体連バレーボールでしょうか）などの人のつながりで、会場をあちこち探し、小松市バレーボール関係の高校の先生方が引き受けてくれる方向となったようである。小松市もこの大会を積極的、前向きにかかわってくれて、会場の提供等の協力が得られた。体育館の使用する時間もかなり早い時間から使用でき、準備を早くできたようであった。また、小松市のバレーボール関係者の多大な協力があった。開会式には、小松市の市長が参加され、来賓挨拶が行われた。大会当日は、障害者スポーツ協会も事務局長、副事務局長等も大会に参加され、丁寧な大会の実施がなされている。

本大会は、地震があっても石川県は元気ですと、皆さんに届けたいとの思いから大会を開催されていた。能登半島地震時では当時能登半島にいた方は、立っている人が歩けなくなり、地面に横たわって、そのまま人がトランポリンではねるような強い地震状況だった。また、地震で自動車が止まったが、乗っている人は自動車の屋根に頭をぶつけるような、非常に強い地震であった。能登半島には、原子力発電所があるが、当時は運転していない休止中だったので、地震の影響は最小限で抑えられたようであった。そして、能登半島だけではなく、県内全域の海岸沿いや川・湿地等の砂地では、建物にひび、道路の起伏や亀裂がかなり広範囲にわたって影響がでていて、まだまだ地震の爪痕が県内の各地に残っている。そして、避難者は、まだまだ県内各地に避難していて、半島部での復興も遅々として進んでいないようであった。災害対策は、地元の自治体を中心となるが、自治体関係者も被災している方も多々いるので、復興に向けてた復興はかなりの負担が地元にある状況である。災害の多いわが国の広域災害時には、イタリアのように国に災害対策部署を明確に作って（災害庁等）、そこが指導的に装備・人材・予算を準備していて、災害地に迅速に介入する体制作りも求められる。

本大会に参加したチームの名古屋市は、かなり広範囲に働きかけを行っているチームである。このブロック大会では、名古屋市、福井県、三重県の交流があつて、それぞれがバレーボールの基礎を十分丁寧に行っている強いチームでもある。また、三重県、福井県チームは監督がバレーボール審判員で、県内バレーボール（精神）チームが少ないので、県外での交流試合等への意識が強くある。そして、全スポ（障害者のスポーツの祭典）とは別に、全国的なバレーボール（精神）の組織を作り、全国大会を開催する。そして、できればイタリア（精神）等との国際試合を行いたいと思っている。名古屋市のチームも各地にコンタクトがあつて、オープン競技大会の開催を推進していて、ホームページを持っていて、イタリアとの国際試合を意識している。

一方で、ブロック大会に参加するチームでは、まだまだ全スポの趣旨や意味、障害者スポーツ等について、よく理解されないまま、施設対抗試合の感覚で大会に参加されている県、市もあるようである。従って、指導者にバレーボール審判員の有資格者による指導を受ける意識や県・市の代表のチームとの意識がまだまだな状況の県や市もあるようである。

岐阜県障害者スポーツ協会はスタッフがバレーボール（精神）の推進を意識されて、県選抜チームを作つて本大会に参加し、障害者スポーツ協会のスタッフがこの試合に2日間同行し、県内での推進を意識されていた。

【大会資料】

■第23回全国障害者スポーツ大会 SAGA2024 大会

北信越・東海ブロック予選会 バレーボール競技（精神障害の部）

I、大会の概要

1. 目的：第23回全国障害者スポーツ大会 SAGA2024 大会に出場するため北信越・東海ブロック代表者チームの選考を目的とする。
2. 主催：（公財）日本パラスポーツ協会、（公社）日本精神保健福祉連盟精神障害者スポーツ推進委員会
3. 主管：石川県障害者スポーツ協会
4. 後援：石川県、小松市、（公財）小松市スポーツ協会
5. 協力：石川県バレーボール協会、小松市バレーボール協会、石川県障がい者スポーツ指導者協議会
6. 協賛：（公財）JKA
7. 実施日：令和6年6月8日（土）～6月9日（日）
8. 会場：小松市末広体育館（義経アリーナ）

〒923-0945 石川県小松市末広町72番地 Tel0761-24-3074

9. 参加資格

大会に参加できる選手は、（1）～（5）に該当する者とする。

- （1）年齢は令和6年4月1日現在で13歳以上の者。
- （2）精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条により、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた者。あるいは、その取得の対象に準ずる障害のある者。
- （3）参加申し込み時に参加する県・指定都市に現住所（住民票のある地）を有する者。
ただし学校に通学している者及び施設に入所・通所している者は、その学校及び施設の所在他の県・指定都市でも参加できるものとする。
- （4）全国障害者スポーツ大会開催基準要綱詳細3（1）②に規定する北信越・東海ブロックの県及び指定都市チーム。
- （5）大会出場に際して、特に健康上問題のない者

10. 申し込み：別紙、参加申込書（様式1）、来場方法及び弁当の申し込み（様式2）に必要事項を記入の上令和6年5月27日（月）【必着】までに、石川県障害者スポーツ協会***へメールで申し込むこと。

11. 参加費：1チーム20,000円 5月31日（金）まで「（公社）日本精神保健福祉連盟」へ申し込むこと。

振込先は「北信越・東海ブロック予選会参加費納入のお願い」を参照。

*振込の際、所属先が分かるように依頼人名欄に所属の県、市をご記載ください。

12. 日程（予定）

6月8日（土）9:00～	会場・受付	
9:30～	11:25 公式練習	*参加の強制はしない
11:00～	11:30 代表者・監督会議	*代表者1名程度
11:45～	12:00 開会式	*参加の強制はしない

- 13:00 ~ 14:10 1回戦第1試合、2回戦第1試合
 14:30 ~ 15:40 2回戦第2, 3試合
 16:00 ~ 17:10 2回戦第4試合
 6月9日(日) 7:30 ~ 開場
 9:00 ~ 10:10 準決勝
 10:30 ~ 11:40 決勝、3位決定戦
 11:50 ~ 12:00 閉会式 *参加の強制はしない

*本予選会は、遠方のチームの着県時間を考慮し交流試合は実施しない。また、参加チームの減少により日程が変更となる場合がある。なお、各チームの同意を得られれば「追い込み」で試合を行う事とする。

13. 健康・安全管理

選手及び役員の健康・安全管理については、参加する個人及びチームにおいて管理すること。また、主催者は参加選手に障害保健の加入と参加者に対する応急処置のみ行う。

14. 全国大会との関連

本予選会は、第23回全国障害者スポーツ大会 SAGA2024 大会(令和6年10月24日~28日)に出場するチームを決定する、北信越・東海ブロック大会の精神障害者団体競技予選会とし、優勝チームがその出場権を得る。ただし、優勝チームが本大会への出場を辞退した場合は、順位が上位のチームに出場権が与えられる。

全国大会出場チームのメンバーは、原則として本予選会と同一とする。

15. その他

- ・この事項に定めるほか、大会の実施に必要な事項は別に大会要綱で定める。

6月8日(金)~9日(日)の緊急連絡先****

■第23回全国障害者スポーツ大会 SAGA2024 大会

北信越・東海ブロック予選会 バレーボール競技(精神障害の部)

開会式次第

開式通告

- 1、前年度優勝チーム紹介 福井県紹介
 - 2、開会宣言
 - 3、主催者あいさつ 石川県障害者スポーツ協会会長
公益社団法人日本精神保健福祉連盟 高畑
 - 3、来賓あいさつ・歓迎のことば 小松市長
 - 4、来賓紹介
 - 5、競技場の注意
 - 6、選手宣誓 石川県代表高松ファイターズ
- 閉式通告

■北信越・東海ブロック予選会 バレーボール

第23回全国障害者スポーツ大会 SAGA2024 大会

北信越・東海ブロック予選会 バレーボール競技（精神障害の部）実施要領

1. 競技規則：

令和6年度に適用の全国障害者スポーツ大会競技規則（公益財団法人日本パラスポーツ協会制定）によるもののほか、この要領の定めるところによる。

2. チーム構成：

- (1) チーム編成は、監督1名、コーチ1名、マネージャー1名の他に、本予選会に限り最大2名の役員のベンチ入りを認める。選手は規定通り12名以内とする。
- (2) 男女混合でチームを構成する。また、試合中は少なくとも1名の女性プレーヤーが出場していなければならない。

3. 競技方法

- (1) トーナメント方式とし、3位決定戦を実施する。ただし、遠方のチーム帰県時間を考慮し、公式戦を優先するため、交流試合は行わないものとする。
- (2) 全試合3セットマッチとし、2セットを先取したチームを勝ちとする。
- (3) 1セット25点のラリーポイント制とする。なお、得点が24点对24点と同点となった場合は、それ以降は2点リードしたチームがそのセットの勝者とする。
- (4) 3セットは25点制で行い、いずれかのチームが13点先取した時点でコートを交代する。
- (5) 試合は、マッチボールシステムで行う。

4. 服装等

- (1) 背番号は、1番から12番までが望ましい。やむを得ない場合は、1番から99番までとする。なお、チーム名、キャプテンマーク及び背番号等のサイズは、規定のものとする。
- (2) リベロプレーヤーを採用する場合は、他の競技者と明確に区別できるユニフォームを着用すること、
- (3) 番号が付いていない場合は、同一種（色）のビブスを各チームで用意して着用するものとする。

5. 試合球

主催者が用意する、日本ソフトバレーボール連盟公認球のソフトバレーボール球・糸巻きタイプ（モルテン製、遠78±1cm、重量210±10g）（品番号：S3Y1500）とする。

6. 組み合わせ

組み合わせは主催者が決定し、事前に各チームに通知する。

7. 開会式及び表彰式

- (1) 開会式は、令和6年6月8日（土）競技開始前に競技会場で行う。
- (2) 閉会式及び表彰式は、試合終了後に競技会場で行い、優勝に症状を授与する。
- (3) 開会式及び閉会式、表彰式は、遠方のチームを考慮し強制参加とはしない。

8. その他

- (1) 前の試合が遅れ、試合開始時刻が過ぎた場合は、前の試合の終了の10分後にプロトコールに入る。
- (2) 公式練習は各3分とする。ただし、両チーム合意の場合は、合同6分を認める。
- (3) オーダー用紙は、キャプテンがトスをするとき提出する。

(4) 令和6年6月8日(土)は代表者会議・監督会議を行い、その場において申し合わせ事項を設けることができる。

(5) 競技場内には、選手、監督、コート、マネージャー、大会役員、競技役員、競技補助員、あらかじめ許可した報道関係者以外は入場することができない。

(6) 監督、コーチ、マネージャーは、既定のマークを左腕部につけること。なお、未着用の場合はベンチに入ることを制限する場合がある。

(7) 競技中、選手に不測の事態が生じた場合は、競技役員に意思を伝え、その指示に従うこととする。

(8) 荒天時他不測の事態が生じた場合の取り扱いは、主催者において別途決定する。

競技役員：競技；委員長西本一典、小嶋秀明、 審判員：委員長紙井ひとみ、荒井勇二、佐々木昂、田中向菜、堀真喜子、下田はなび、小川美樹、西優翔、長野加奈、小松商業高等学校女子バレーボール部、小松工業高校男子バレーボール部 総務；越川恭明、池田優子 救護；医師：野村忠雄、岸部都、看護師：小坂洋子、大久保由美子、針谷絹代

■開場図 . . . 省略

■諸注意

・アリーナでの飲食は、選手および役員の水分補給以外は禁止となります。

*水分補給の際は、ペットボトルなどフタ付きのものをご利用ください。

・昼食は観客席をご利用ください。

・チーム、個人出たゴミは必ず持ち帰りください。斡旋のお弁当の空のみ回収いたします。

・貴重品の管理は、チームまたは個人の責任において管理してください。

・本予選会中に怪我や体調不良者が出た場合は、応急処置をいたしますので、大会本部までお越しくください。

■会場周辺図 . . . 省略

■第23回全国障害者スポーツ大会 SAGA2024 大会

北信越・東海ブロック予選会 バレーボール競技（精神障害の部）組み合わせ図 . . . 諸略

■タイムスケジュール表

1日目、2日目 時間、 Aコート Bコート . . . 省略

■各都道府県・指定都市 参加選手等一覧表

都道府県名・指定都市名（チーム名）

区分 主将 番号 氏名 フリガナ 身長 . . . 省略



【北信越・東海ブロック写真】

4) 令和6年度全国障害者スポーツ大会・団体バレーボール（精神）

近畿ブロック大会予選会 報告

報告年月日： 令和6年12月3日

報告者所属・氏名： 一般社団法人精神障害者地域生活支援とうきょう会議 瀬川 聖美

1. 大会概要

- 5) 大会正式名称： 第23回全国障害者スポーツ大会精神障害者バレーボール競技
近畿地区予選会
- 6) 大会開催日時： 令和6年6月15日(土) 10:00~14:20
- 7) 大会開催場所： 滋賀県草津市総合体育館
滋賀県草津市下笠町161
- 8) 主催者： 公益社団法人 日本精神保健福祉連盟
滋賀県 草津市
一般社団法人 滋賀県障害者スポーツ協会
協力： 滋賀県バレーボール協会
- 8) 大会事務局： 一般社団法人滋賀県障害者スポーツ協会
滋賀県大津市松本1-2-20 農業教育情報センター5階
- 9) 参加都道府県数 3都道府県 2政令指定都市 5チーム
- 10) 参加チーム名： 兵庫県 大阪府 滋賀県 京都市 神戸市
- 11) 参加者合計： 147名（選手及び監督等67名、観客数約60名、審判及び大会関係者約20名）

2. 競技会状況・試合の進捗状況

今年度は来年の全国障害者スポーツ大会開催県の滋賀県が予選会に参加。来年度の大会会場での開催となった。

今回は昨年の「特別 燃ゆる感動かごしま大会」近畿代表の大阪府は危なげなく勝ち上がり決勝進出。

京都市対兵庫県は京都市の巧みな攻撃に食らいつく兵庫県という構図であったが、京都市が勝利。

兵庫県はクラブチームになり1年ということで昨年よりも力をつけてきている。

決勝戦は大阪府対京都市という昨年と同じカードとなった。昨年はフルセットまでもつれ込んだが、今大会は大阪府が余裕で勝利し、近畿ブロック代表の座をもぎ取った。

優勝した大阪府は医療デイケア単独チーム

準優勝となった京都市は医療デイケアの単独チーム。

3. 大会の結果

①優勝 大阪府

②準優勝 京都市

※3位決定戦及び交流戦は行われなかった

4. 全体の感想など

神戸市チームはユニフォームを揃えられずピブスであった。兵庫県、京都市は共にシャツはユニフォームだがパンツは短い人から長い人まで揃っていないかった。

大阪府、京都市、兵庫県は応援がチーム名となっていて残念であった。来年はプレ大会となると思われるので、改善を期待したい。連盟からも各ブロック大会主催者に丁寧な説明をすることが必要だったと考える。

また、出場チーム数が5チームと少ないので3位決定戦や交流戦はやってほしかった。

せっかく滋賀県まで来ているので、初戦敗退で帰宅では気の毒な気がしてならない。



【近畿ブロック写真】

5) 令和6年度第23回全国障害者スポーツ大会：団体バレーボール（精神）
中国・四国ブロック予選会 報告

報告年月日：令和6年6月

報告者所属・氏名：（公社）日本精神保健福祉連盟 精神障害者スポーツ推進委員会
委員 田所 淳子

1. 大会概要

- 1) 大会正式名称：令和6年度第23回全国障害者スポーツ大会バレーボール競技（精神）
中国・四国ブロック予選会
- 2) 大会開催日時：令和6年5月18日（土）～19日（日）
- 3) 大会開催場所：鳴門・大塚スポーツパーク アミノバリューホール（徳島県鳴門市撫養町立岩四枚）
- 4) 主催者：徳島県、徳島県パラスポーツ協会
- 5) 共催：（公財）日本パラスポーツ協会、（公社）日本精神保健福祉連盟
- 6) 後援：鳴門市、徳島県精神保健福祉協会
- 7) 主管：徳島県バレーボール協会
- 8) コートオフィシャル：徳島県庁バレーボール部、徳島大学医学部バレーボール部、北島町ソフトバレーボール部、徳島県パラスポーツサポーター、むつみホスピタル、TAOKA ころの医療センター、あいざと会
- 9) 運営協力：徳島県障がい者スポーツ指導者協議会、四国大学看護学部、徳島文理大学、健祥会学園、徳島医療福祉専門学校
- 10) 救護：ドクターバンク医師、ドクターバンク看護師
- 11) コンディショニングルーム：徳島県理学療法士会、徳島県作業療法士会、徳島県トレーナー協会
- 12) 大会運営事務団体・担当者：徳島県パラスポーツ協会 岡崎 恵
- 13) 参加都道府県：山口県、島根県、鳥取県、広島市、岡山県、香川県、徳島県、愛媛県、高知県（9チーム）、
- 14) 参加者合計：
選手団：選手 87 名、選手団役員 35 名
観客数：延べ約 50 名（2 日間）
本部・運営・ボランティア：延べ 130 名（2 日間）

2. 競技会状況・試合の進捗状況

- 1) 5/9 代表者会議（大会前）
 - ・ソックスの統一すること（同色で統一。長さは自由）
 - ・監督等はワッペンマークを適切に付けること
 - ・刺青は咎められない
 - ・キャプテンマークを適切に付けること
- 2) 当日の代表者会議
 - ・アンダーウェア、アンダータイツ着用の希望あり
→通常は認められないが今回は認めることとする。本来なら腕用、足用サポーターを使用すること。
 - ・トーナメントのパターンにより、交流戦ができない敗者チームが1チームあるが、敗者チーム同士

で話し合いの上、ウォーミングアップコートにて適宜、練習試合をすることは認める（徳島県バレーボール協会）

- ・6人制競技規則の改正があり、30秒のタイム中、選手の行動は自由であることになった（コート上にいても可）。
- ・（公社）日本精神保健福祉連盟作成の「手帳取得促進チラシ」を説明とともに配付する。特に質問はなかった。

《1回戦》

●香川県 対 島根県

1セット目はシーソーゲームだったが、島根の動きが徐々によくなり、2セット先取した。

●愛媛県 対 岡山県

初盤は両チームとも硬かったが、岡山県の動きが徐々によくなり、エンジン始動、1セット目を先取。その後も岡山県は快調にプレーして2セット目も取り、勝利した。

●徳島県 対 鳥取県

両チームとも動きが小さく、ワンヒットで返球するプレーが目立った。鳥取県が1セット目を先取したが、その後、徳島県のエンジンがかかり、2セット目を取る。3セット目はシーソーゲームになったが、最後は鳥取県が逃げ切った。

●高知県 対 広島市

序盤はシーソーゲームだったが、高知県のレシーブや連携ミスが多く、強打は少ないものの広島市が1セット目を先取。高知県のまき返しが見られず、広島市が2セット目も取って勝利した。

●山口県 対 島根県

昨年、ブロック優勝した山口県がシードされ、1回戦を勝ち抜いた島根県と対戦した。山口県は序盤から動きがよく、ミスも少ない。ワンサイドゲームで1セット目を先取した。2セット目は島根県の動きが格段によくなりシーソーゲームでもつれたが、中盤からやはり山口県が抜け出し、勝利した。

《準決勝》

●山口県 対 岡山県

山口県がリードしてゲームを進めたが、昨日のような俊敏さが見られず、岡山県が中盤、同点に追いつき、逆転。山口県も巻き返しを図り終盤に追いつく。デュースを繰り返したが岡山県のスパイクが決まり、1セット目を先取する。2セット目は初盤からシーソーゲームが続くも、中盤から岡山県がリードする。山口県のスパイクがアウトやネットを超えないなど悉く決まらず、最後は岡山県が調子を保ち、勝利した。

●鳥取県 対 広島市

両チームとも強打はないが、終始、広島市がリードして展開する。鳥取県は連携ミスやサーブミスもあり、広島市が2セット先取し、勝利した。

《交流戦》

●島根県 対 愛媛県

セットカウント 2-1 で愛媛県が勝利した。

本来は、香川県 対 愛媛県だったが、香川県が棄権したため、代わって島根県が出場した。

●徳島県 対 高知県

セットカウント 2-1 で徳島県が勝利した。

《3位決定戦》

●山口県 対 鳥取県

連覇を逃した山口県と鳥取県の試合は、山口県が難なく試合運びを進め、ワンサイドゲームになり、2セット先取して勝利した。

《決勝戦》

●岡山県 対 広島市

6年ぶりの優勝を狙う岡山県、2年ぶりに振り返りたい広島市の決勝戦は、力が拮抗したパワーゲームになり、広島市が1セット目を先取する。2セット目もシーソーゲームとなり、デュースを繰り返して岡山県が勝ち、勝負は3セット目に持ち込まれた。その勢いの流れのまま、岡山県が3セット目も初盤から飛ばし、最終セットは焦る広島市を寄せ付けず、岡山県が勝利した。

3. 大会の結果

優勝 岡山県 2位 広島市 3位 山口県

4. 次年度について

①次年度ブロック大会の開催予定

令和7年度事務局は山口県庁 健康福祉部障害者支援課

②開催県の決定方法の確認

中国・四国の県、障害者スポーツ協会、パラスポーツ指導員協議会の会議において、開催地を決定している。

5. 大会主催者・関係者との意見交換の状況や感想：

《徳島県パラスポーツ協会の意見》

- ・今後の参加資格について。精神障害者保健福祉手帳限定にしていくのはいかがなものか。就労と違い、スポーツは幅広い方が参加できることが望ましい。手帳が取得できる障害程度であっても手帳を取得したくない人の意見を尊重すべきである。替え玉参加を防止するのであれば、運転免許証等で本人確認をすればよい。狭義の精神障害者を対象にするのなら、手帳の有無ではなく、病名で判断する方法もあるのでは。(担当者の意見)
- ・トレーナーを認めているが、待機位置などが不明瞭。
- ・トレーナーを帯同しているチームとしていないチームでは、けが人への対応に差が出てしまう。

《島根県バレーボール協会の意見》

- ・本大会の選手団付き役員は「監督・コーチ2名、トレーナー」となっているが、全国大会は「監督・

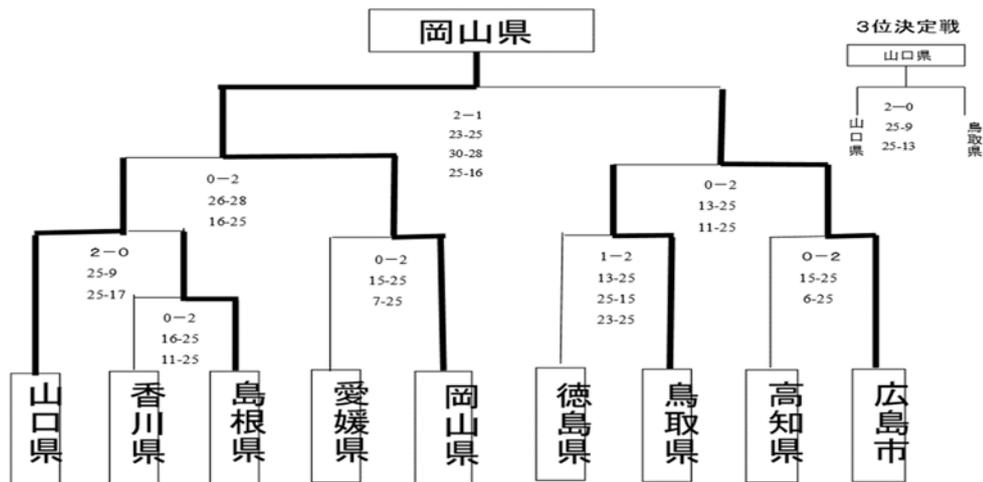
コーチ・マネージャ」となっている。ブロック予選大会も全国大会と同設定にするべき。「ブロック大会ではこうだったのに」と齟齬が生じる恐れあり。審判側にも戸惑いがある。日本精神保健福祉連盟から、各ブロック大会に「全国大会の要項に準じる要項とすること」と指示を出してほしい。

- ・トレーナーの扱いについて。監督等はワッペンを付けることになっているが、トレーナーは6人制競技規則ではベンチ入りの対象ではないため、ワッペンが存在しない。今回、トレーナーであることを明らかにするため、手作りのワッペンを作成しベンチ入りさせたが、いかがなものか。
- ・予選会プログラムに過去数年間の優勝チームを参考に掲載してはどうか。
- ・徳島県自体の課題だが、県代表のチーム編成について疑義がある。県予選大会をせずに特定の1チームを県代表に指定しているため、他のチームや団体に所属する選手が選抜の対象になっていない。幅広くチームに参加の機会を提供できる県予選大会を開催することが望ましいのではないか。

6. その他、全体の感想

- ・事務局には準備から大会当日まで丁寧に対応をしていただいた。
- ・多くの団体や学校の協力を得ており、スタッフ数は十分であった。
- ・大きなけが等はなかった。救護や施術の準備を十分にしていた。
- ・ユニフォームの自治体名表示は努力義務規定であったが、1チームのみ表示がされていなかった。

第23回全国障害者スポーツ大会 中国・四国ブロック予選会
バレーボール競技 精神障害者の部 R6. 5. 18~19



【中四国ブロック写真】

6) 全国障害者スポーツ大会団体：バレーボール（精神）

九州ブロック大会予選会：全国障害者スポーツ大会リハーサル大会：リハーサル大会

報告年月日：令和6年6月

報告者所属・氏名：（公社）日本精神保健福祉連盟 精神障がい者スポーツ推進委員会

委員 田所 淳子

1. 大会概要

1) 大会正式名称：第23回全国障害者スポーツ大会リハーサル大会兼令和6年度第23回全国障害者スポーツ大会バレーボール競技（精神）九州ブロック予選会

2) 大会開催日時：令和6年6月8日（土）～9日（日）

3) 大会開催場所：小城市芦刈文化体育館（佐賀県小城市芦刈町三王崎172-1）

4) 主催者：佐賀県、小城市

5) 主管：佐賀県バレーボール協会

6) コートオフィシャル：佐賀県立牛津高等学校、佐賀県立小城高等学校、佐賀県立佐賀北高等学校、佐賀県立佐賀工業高等学校、佐賀県立佐賀西高等学校、佐賀県立白石高等学校、佐賀県立致遠館高等学校、学校法人江楠学園北陵高等学校

7) 大会運営事務団体・担当者：佐賀県SAGA2024・SSP推進局SAGA2024競技運営チーム全国障害者スポーツ大会担当 梅崎氏、中村氏、原氏

8) 参加都道府県：福岡県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県、福岡市、北九州市（7チーム）

地元参加 佐賀県

欠席は長崎県、熊本県、熊本市

9) 参加者合計：

選手団：実人数112名

観客数：延べ50名（2日間）

本部・運営 延べ80名（2日間）

高校生：延べ60名（2日間）

2. 競技会状況・試合の進捗状況

1) 6/7 関係者との打ち合わせ会議（佐賀県庁、佐賀県バレーボール協会、技術指導員（日本精神保健

福祉連盟)

- ・エントリー変更の期限は6/7、17時
- ・ブロック予選会はどこも基本的な実施要項で統一し、6人制競技規則の則ったルールで行うべき。ローカルルールは入れるべきではない。全国大会の時に「自分たちのブロック予選会ではこうだったのに」となるのはよくない。
- ・コンポジションシートに男女別の記載欄がない→記載欄を急遽、作ってもらう。

2) 6/8 監督会議

- ・ベンチスタッフ3名の服装統一との記載あるも、別の資料では「揃えることが望ましい」とある。どちらが本当か？揃えるなら、詳細な点まで統一しなければならないか？
 - 服のメーカー統一とまでは言わないが形状服装の種類、色は揃えること。
- ・コンポジションシートにはトレーナーは記載しないのか？
 - しない。
- ・参加チームが試合の動画撮影をしてよいか？
 - 2階からなしてよい。ただし社会公開はしないこと。
- ・補聴器を付けている選手1名いるが、危険金属物とみなされるか？
 - みなさない。

《1回戦》

●A—1 福岡市 対 沖縄県

両チームとも初歩的なミスあるも、福岡市が常時リードする。沖縄県もよく守るが強力なアタッカーがいないこともあり、福岡市が2セット先取で勝利する。

●B—1 大分県 対 福岡県

福岡県が終始リードし、2セット先取し勝利する。

●A—2 宮崎県 対 北九州市

事前練習や個々選手の能力からいうと北九州市が優って見える。2セット目はシーソーゲームになるも北九州市が抜き出て逃げ切り、勝利する。

《交流戦》

●B—2 沖縄県 対 大分県

力が均衡したように見える2チームだが、沖縄県が2セット先取して勝利した。

●B—3 宮崎県 対 佐賀県

地元佐賀県が2セット先取で勝利する。

●特—2 佐賀県 対

地元チームの登場に、途端一般観覧客が増加。直前の試合で3位になった福岡市がすぐにこの試合で疲れているためか、少し精鋭を欠いた運びとなり、佐賀県が1セット目を取る。2セット目も同じような状況が続き、佐賀県が2セット目も取り、勝利した。残り4か月でどこまで強化できるか、楽しみである。

《準決勝》

●A—3 鹿児島県 対 北九州市

昨年の全国大会で準優勝した鹿児島県が満を持して登場。鹿児島県はサーブ、全てのアタックにパワーがあり、北九州市はレシーブができない。若くてアクティブな鹿児島県がワンサイドで試合を進めて2セットを取り、あっさり勝利した。

●B—4 福岡市 対 福岡県

同じ福岡勢同士の対決。序盤は均衡していたが、その後、岡県が勢いを切らさずリードし先取。2セット目も福岡県の校長が続き、勝利した。

《3位決定戦》

●特1 北九州市 対 福岡市

同じ福岡の指定都市対決。福岡市の動きがよく、数名のアタッカーがスパイクを決めて終始リードし1セット目を取る。2セット目は北九州市が序盤先行していたが、すぐに福岡市が追い抜き、優位にゲームを進めて勝利する。

《決勝》

●特3 鹿児島県 対 福岡県

小城市長、副市長が観覧される。鹿児島県は高身長選手数名を擁し、声高く熱血なプレーを繰り広げ、福岡県が追いかける展開になる。福岡県も必死で拾ってつなぐが、鹿児島県が逃げ切り1セット目を先

取る。鹿児島県は攻撃も多彩で単純ミスも少なく、2セット目も順調に得点を重ねて勝利し、初めて九州ブロック代表となる。地元枠で出場した昨年、今年と2年連続で全国大会出場の切符を手にした。

3. 大会の結果

優勝 鹿児島県 2位 福岡県 3位 福岡市

4. 次年度について

①次年度の九州ブロック大会の開催予定

令和7年度は北九州市で開催予定。事務局は北九州市障害者スポーツ協会。担当は田中氏。

②開催県の決定方法の確認

各県市による協議の場で、数年先まで決定している。

5. 大会主催者・関係者との意見交換の状況や感想

・エントリー変更に関して、県とチームの意見の食い違いや齟齬が見られた。

・大会準備を担ってきた県担当者が大会当日は別部署に配属されることで円滑に進まないこともある。大会当日は従来の担当職員から別の職員に代わることで弊害がある。

。全国各ブロックの大会開催要項・競技実施要領等の統一が必要。

《佐賀県庁の意見》

・今回の大会まで準備してきた職員と、今回の大会会場で従事した職員が違っており、経緯の引き継がしたものの、大会当日は佐賀県バレーボール協会とのやりとりで食い違いや齟齬が発生した。

・今大会で従事した職員が経験を生かして10月の全国大会でも従事し、円滑な業務になるよう留意したい。

《佐賀県バレーボール協会の意見》

・佐賀県庁とのやりとりや業務、情報伝達、考え方のすり合わせがうまくいっていない面あり。例えば、閉会式でチームに渡す表彰状が「第23回全国障害者スポーツ大会リハサール大会」のみしか記載されて

いないが、「九州ブロック予選会」の名目も記載するべきではないか。他、「メダルのプレゼンターを佐賀県バレーボール協会の会長がする」と県庁から言われたが、表彰状は知事名であり、佐賀県バレーボール協会は単なる運営主管団体であるため、本来、主催者である県がプレゼンターをするべき立場ではないか。

《参加したチームから聞かれた意見》

- ・参加チームの待機場所の環境が不十分。柔道場が待機場所になったが、畳も剥がしており、選手が横になれる環境にない。また、2階は観客も含めて座れる椅子も置かれず、選手たちは地面に座りこんでいた。環境が非常に劣悪。

- ・体育館のフロアに1面コート設営ならコート周囲に観客席やチーム待機席を設営できるスペースができる。2日目は1面だったので、観客席やチーム待機席設営の要請を佐賀県庁にしたが、協議もなく聞き入れてもらえなかった。

- ・参加資格について。精神障害者保健福祉手帳のみに限定するのは反対。厚生労働省の言葉の使い方からすれば、自立支援医療受給者も精神障害者、という定義に当てはまる。厚生労働省は病者のことを「精神障害者」と呼んでいる。彼らにとってスポーツや社会活動が回復の一助になっている。手帳所持者＝障害者、というのなら、厚生労働省が「精神障害者」という言葉で、病者のことを呼ばないようにするべきだ。

6. その他、全体の感想

- ・会場の体育館は、コートが2面設営可能。ただし、アップコートやサブコートがないため、事前練習は近隣の高校体育館を使用する。雨天時は移動に負担があるが仕方がないと思われる。

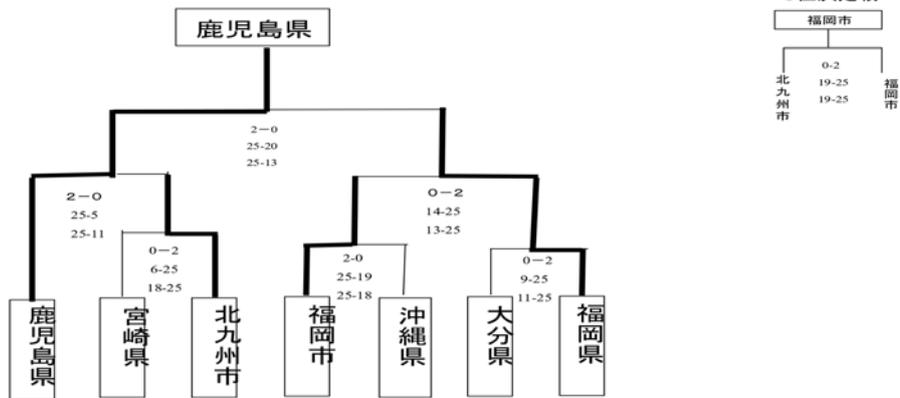
- ・体育館のコート床は令和5年にタラフレックス（長尺弾性塩ビシート）床に貼り替えられた。木目調で滑りにくく高性能、高品質。照明はLEDライト、冷暖房完備であり、コートでのプレー環境は申し分ない。

- ・会場の体育館の2階には観覧席がないことから、観客が手すりごしで立ったままの観覧になる。

→佐賀県庁によると、10月の全国大会では、1日目は2面設営により、周囲の観客席設営は不可能。2日目は1面なので、周囲に観客席を設営する予定、とのこと。本大会も2日目は1面であったが、観客席等は設営されなかった。

- ・救護体制は看護師1名、県保健師1名。大きなけが人は発生しなかったが、決勝戦終了後、過呼吸になった選手1名発生。

第23回全国障害者スポーツ大会 九州ブロック予選会
バレーボール競技 精神障害の部 R6. 6. 8~9



【九州ブロック写真】

2. 第23回全国障害者スポーツ大会SAGA2024

1) 個人競技：卓球（精神） 報告

報告年月日：令和6年11月

報告者所属・氏名：(公社)日本精神保健福祉連盟 精神障がい者スポーツ推進委員会
委員 河本 次生

1 大会概要

1) 大会正式名称：第23回全国障害者スポーツ大会「SAGA2024」卓球競技

2) 大会開催日時：令和6年10月26日(土)～27日(日)

3) 大会開催場所：基山町総合体育館、基山町民会館（佐賀県三養基郡基山町宮浦666）

4) 主催者：佐賀県、基山町

5) 主管：佐賀県卓球協会

6) 競技サポーター：東明館高等学校、鳥栖高等学校、鳥栖商業高等学校、鳥栖工業高等学校、三養基高等学校

7) 大会運営事務団体・担当者：佐賀県SAGA2024・SSP推進局SAGA2024競技運営チーム全国障害者スポーツ大会担当 杉馬場 祐 主査

8) 参加者合計：延べ1100名

選手：実人数420名（内精神障害 男性59名 女性40名）、競技役員160名（2日間）、本部・運営：延べ200名（2日間）、観客数：延べ200名（2日間）、高校生：延べ120名（2日間）

2 競技会状況・試合の進捗状況

1) 関係者との打ち合わせ会議（10月24日）

参加者：佐賀県庁、佐賀県卓球協会、技術指導員3名（日本精神保健福祉連盟・日本肢体不自由者卓球協会時耕佐知子事務局長・日本知的障がい者卓球連盟柏木真子）

・身体障害者の特殊ルール、STTの審判講習について

2) 監督会議（10月25日）

参加者：佐賀県庁、佐賀県卓球協会、技術指導員3名（日本精神保健福祉連盟・日本肢体不自由者卓球協会時耕佐知子事務局長・日本知的障がい者卓球連盟柏木真子）、監督者

・事前質問

① 服装規定について：監督・コーチの白色シャツの着用について→競技エリア内の選手団は選手団ジャージの着用に配慮するよう周知する。

② 同一選手団の試合時間について：できるだけ重ならないよう配慮した。

③ 競技領域について：定められた14m×7mは会場の都合上確保できない。競技実施要領に示された8m×5mから10m×5mに広げた。

・監督者会議での質問は、事前質問のみ受けると通知していたが、当日に質問の有無を投げかけたが、特に質問は出なかった。

2) 競技会状況

・大会の進行は2日間ほぼ時間通り行われ、混乱も見られなかった。

・コートは18面あり、そのうち4面を精神障害と知的障害の男女で使用し、精神障害と知的障害が対戦することもあったが、表彰は障害区分ごとに行われた（前回の鹿児島大会と同様）。各ブロックで3～4

名のリーグ戦が行われた。精神障害は、男子19ブロック（3名×17ブロック、4名×2ブロック）、女子13ブロック戦（3名×12ブロック、4名×1ブロック）で行われ、3位までが金・銀・銅メダルがもらえた。基本は3名1ブロックで全員メダルがもらえるが、4名ブロックで4位になるとメダルはない。今回1位は花束があり、4位の選手も表彰式に参加し拍手をもらう形となっていた。

- ・精神障害は知的障害と同様に特別ルールがないため、公式ルール通りで審判の混乱もなかった。
- ・精神障害は、試合のほか、招集、使用球の選定、入退場なども問題なく行われていた。
- ・精神障害の選手に介助者をつけていた選手団が1つあった。介助が必要な選手は、申込時に介助の入場申請ができ、競技場内に入れるがベンチ（アドバイザー席）には入れない。当日の介助者に話を聞くと、「選手が不安な時に話を聞く役割をしている。精神の専門職ではなく、選手とは以前に教師と生徒の関係で信頼関係がある。」とのことだった。
- ・体育館2階の観覧席が少ないため、選手団が全員入れず、観覧席の半分を九州地区と次回開催地の選手団、その他の選手団は武道場が控室となり、応援時のみ観覧席へ移動していた。また、観覧できない選手のためテレビ観戦できるように工夫されていたが、屋外の休憩所にテレビが設置され、観戦者は限られていた。
- ・佐賀大会では「SAGA Pref. Presents 卓球MVP（最優秀選手）賞」が設けられた。表彰基準は、失点率が一番低い選手で、表彰対象者は各障害の男女1名となっており、精神障害も男女1名ずつが表彰された。
- ・主なトラブルは1点、身体障害で対戦選手のユニフォームが被りどちらかのユニフォームの色を変えないといけないルールだが、お互い変更を望まず、技術指導員が介入し、最終的にゼッケンの位置をずらすことで収拾を図った。

3 大会主催者・関係者との意見交換の状況や感想

- ・リハーサル時の反省点から、本大会では進行・運営において改善が見られた。入退場やボランティアの役割などが明確になってよかった。
- ・救護室にカームダウン・クールダウンスペースが2か所設けられていてよかった。救護室の利用者は6名（2日目午後3時の時点）。精神障害は5名（83.3%）が利用していた。ほか1名は発熱者。
- ・カームダウンスペースが救護室内にあり利用に至らなかった選手もいたため、気軽に利用するためには救護室以外の人気の少ない廊下などに設置することを検討してもよいかもしれない。
- ・救護室の利用者は2日目に集中しており、朝からの利用がみられた。長旅の疲れ、集団生活、試合の緊張などから不調になりやすく、不眠を訴える選手が多かった。横になって休みたい選手もいたようで、カームダウンスペースは椅子のみのため、個室で横なるスペースがあるとよかった。
- ・精神障害の棄権者は14名中4名（28.6%）であり、特別多くはなかった。
- ・「卓球競技に関する連絡事項」の「救護所について」に、カームダウン・クールダウンスペースの説明が書かれていなかったため、周知されていると利用者がもう少し増えていたものと思われる。
- ・体育館では、下履きと上履きの履き替え場所が指示されず、戸惑う選手もみられた。リハーサル時に指摘し連絡事項には記載されたが、当日は区別をつけないことになった。

6. その他、全体の感想

精神障害に特別ルールがないため、選手・審判・関係者に競技自体の混乱は見られない。カームダウン・クールダウンスペースの配慮があれば、他の障害と同様の試合環境が整うものと思われる。

介助者は身体障害だけではなく精神障害も入場申請ができることが周知されると、さらに精神障害者の試合をしやすい環境が整うと思われる。

今回参加した全卓球選手は420名。障害の内訳は、身体障害176名(41.9%)、知的障害145名(34.5%)、精神障害99名(23.6%)となっている。うち身体障害は肢体障害102名、視覚障害50名、聴覚障害24名に分かれ、さらに肢体障害は15の障害区分で選出されている。また、身体障害、知的障害は年齢区分がある。現段階で精神障害の区分についての見直しの必要性は感じないが、今後、経過を見ながら議論が必要になるかもしれない。

精神障害と知的障害の重複障害の場合において、知的障害で出場制限がかかった選手で、精神障害で出場している選手もいるが、重複障害の精神障害の出場基準を明確にする必要もあるかもしれない(知的障害者が精神障害手帳を所持するも精神科の服薬なしの扱いなど)。

精神障害は、各選手団(67自治体)から男女1名ずつの参加枠(開催県を除く(今回佐賀県男子3名・女子2名参加))であるが、精神障害の参加選手団は、男子54選手団(80.6%)、女子37選手団(55.2%)であった。また、女子がいない選手団から2選手団で男子2名が参加していた。精神卓球の全スポ参加は今回で3回目となるが、まだ精神障害の選手選考ができない選手団が複数あり、特に半数近くの選手団に女子の参加がないことが分かった。参加していない選手団においての精神選手の派遣には、各都道府県での精神卓球の普及啓発が必要と思われる。精神卓球は各都道府県に競技団体がいないため、既存の競技団体(一般・身体・知的等)の協力が欠かせず、地域事情に応じて誰がどのように連携していくのが課題となってくる。



2 令和6年度全国障害者スポーツ大会

2) 第23回全国障害者スポーツ大会：団体競技：バレーボール（精神）

報告年月日：令和6年11月10日

報告者所属・氏名：田所 淳子

1. 大会概要

- 1) 大会正式名称：第23回全国障害者スポーツ大会
- 2) 大会開催日時：令和6年10月26日（土）～27日（日）
- 3) 大会開催場所：小城のりスポーツセンター（佐賀県小城市芦刈町三王崎172-1）
- 4) 主催者：公益財団法人日本パラスポーツ協会、文部科学省、佐賀県、小城市他
- 5) 後援団体：厚生労働省 他
- 6) 競技主管団体：佐賀県バレーボール協会
- 7) 競技補助員：佐賀県立牛津高等学校、佐賀県立小城高等学校、佐賀県立佐賀工業高等学校、佐賀県立白石高等学校、学校法人江楠学園北陵高等学校
- 8) 大会運営事務団体・担当者：佐賀県国スポ・全障スポ 梅崎
大会会場担当者 中村、原
- 9) 参加都道府県数（チーム数）：7府県市（7チーム）
- 10) 参加都道府県：青森県、横浜市、福井県、大阪府、岡山県、鹿児島県、佐賀県
- 11) 参加者数：
選手、チーム役員数：選手83名、チーム役員23名
観客数：10/26 約200名、10/27 約200名
運営スタッフ：（各日）選手団実施本部員・実施本部員（佐賀県庁）8名、選手団サポートボランティア28名、競技補助員（高校生）65名、38名、運営ボランティア20名、情報支援ボランティア（手話・筆談）10名、小城市実施本部員（小城市役所職員）23名、競技付帯サービス（マッサージ類）6名、医療救護 医師・看護師各1名、佐賀県バレーボール協会46名

2. 競技会状況

佐賀県県庁所在地である佐賀市から西に車で約30分に位置する小城市は、かつて運河物流、商業、農業で発展した4町が平成に合併した市である。バレーボール競技（精神障害者の部）は、小城のりスポーツセンター（旧小城市芦刈文化体育館）で開催された。身体・知的バレーボール競技会場は、佐賀市、鳥栖市で開催された。

3. 試合の状況

1回戦 A-1 佐賀県 対 岡山県

岡山県チームは、最近急逝した選手の遺影をベンチに置いて試合に臨んだ。佐賀県チームには地元大応援団が駆け付けた。1回戦であり、両者ともに多少の硬さが見られたが、1セット目は岡山県が終始リードして勝利。2セット目も岡山県が前半リードしたが、佐賀県は徐々にエンジンがかかり、17-17で同点に追いつき、逆転に成功。しかし岡山県も追いつき、24-24のデュースになる。最後は岡山県にミスがあり、27-25で佐賀県が勝利する。3セット目は岡山県がリードしていたが、前半で佐賀県が逆転。し

かし岡山県も追いつき 13-13 になる。その後はどちらも譲らず、シーソーゲームが続いたが、佐賀県が
一歩抜け出し 25-22 で試合を決め、地元大会で初勝利した。

1 回戦 B-1 鹿児島県 対 青森県

昨年、決勝で涙のみ準優勝であった鹿児島県が満を持して登場。相手は北海道・東北ブロック代表
で常連出場の青森県。1 セット目は鹿児島県がワンサイドでゲームを進めたが、途中から青森県が逆転
して勝利する。2 セット目は鹿児島県が目覚めたように終始、リードして勝利した。3 セット目は青森県
のリードで進んだが、鹿児島県が 14 点で同点に追いつき、逆転に成功。その後も鹿児島県が終始リード
し、青森県も粘るが、最後は鹿児島県が逃げ切って勝利した。

1 回戦 B-2 大阪府 対 横浜市

数年ぶりに関東ブロックの代表として出場した横浜市が、近畿ブロック常連の大阪府と対戦。1 セッ
ト目は横浜市のスパイクが次々決まりリードをするが、大阪府が追い付き 16-16。以後はシーソーゲー
ムになり、最後は大阪府が 24-22 で逃げ切るかと思っただが、横浜市が粘って追いつき、デュースになる。
その後はどちらも譲らずハラハラした展開に。最後は横浜市が 31-29 で勝利した。2 セット目は前半、
大阪府がリードして進めたが、横浜市がじわじわ追いつき、13-13、その後は逆転し、そのまま横浜市が
有利にゲームを進めた。大阪府はなかなか得点ができず、25-14 で横浜市が勝利し、準決勝に駒を進め
た。

準決勝 A-2 福井県 対 佐賀県

シードされていた福井県は、1 回戦で勝ち上がった地元佐賀県と対戦。昨年の優勝チームである福井
県は今年の連覇を目指して、序盤からエンジン全開。対して佐賀県も胸を借りるようになりつつが、
福井県は連携にそつがないうえに、スパイクも威力があり、ワンサイドゲームで 2 セット先取して、決
勝に駒を進めた。

準決勝 B-3 鹿児島県 対 横浜市

両チームとも強打で攻める力強いプレーを見せる。1 セット目は、序盤、横浜市がリードするが、鹿
児島県が追いつき 6-6、逆転。しかし、横浜市も果敢にプレーし、シーソーゲームが続いた。17-17 にな
った後は、鹿児島県が僅差で終始リードし、最後は勢いを保ったまま横浜市を突き放して鹿児島県が 25-
19 で先取した。2 セット目は、序盤からシーソーゲームだったが、横浜市はネット際でバタついたプレ
ーもあり、途中から鹿児島県が勢いに乗り、リードする。横浜市もじわじわ追い上げるが、点差が縮ま
らず、攻防が続くも、勢いが弱まらない鹿児島県が逃げ切り、25-17 で勝利し、決勝進出を決めた。

交流戦 特-1 岡山県 対 青森県

両者とも、昨日の 1 回戦は勝っていたかもしれない試合を落としたチーム同士。元気がなく、連携が
乱れがちな岡山県に対して、サービスエースで大量得点を重ねるなど青森県が終始リードし、2 セット
を先取して青森県が勝利した。

交流戦 特-2 青森県 対 大阪府

1 セット目は大阪府が大逆転する。2 セット目は終始、青森県が調子よく運んで勝ち、第 3 セットにも

つれこんだ。青森県が前半からリードし、大阪府も必死に追い上げたが、最後は青森県が15-11で勝ち逃げた。

3位決定戦 特-3 佐賀県 対 横浜市

地元大応援団の佐賀県と、横浜市の対戦。そつのない攻撃を見せる横浜市に佐賀県もよく反応したが、終始横浜市がリードして1セット目を先取。2セット目の序盤も横浜市がリードしていたが、7-7で佐賀県が追いついた。しかし、その後も横浜市が徐々に佐賀県を突き放して点差が開き、25-16で横浜市がセットを取って勝利した。

決勝戦 特-4 福井県 対 鹿児島県

昨年の全国大会決勝と同じカードになった。2連覇を目指す福井県とリベンジしたい鹿児島県の因縁対決。1セット目は前半、福井県にミスが多く、鹿児島県が大量リード。しかし、福井県も調子を上げ、ジャンプサーブや強打スパイクで得点し、15-15に追いついて逆転、その後は福井県がリードする。鹿児島県も猛追するが、福井県が25-21で逃げ切った。2セット目も福井県が序盤からリード。鹿児島県も決して悪くはないが、福井県に追いつけない。福井県はスパイクが強く、ブロックの成功率も高い。鹿児島県は若干レシーブミスが目立つ。福井県が終始リードしていたが、鹿児島県も執念を見せて、22-22で同点、逆転に成功。福井県はミスもあり、鹿児島県が底力を見せて25-23で勝ち、勝負は3セット目へ。

3セット目は序盤から福井県が僅差のリードで進む。鹿児島県はどうしても追いつけなかったが、中盤、福井県のミスもあり16-16の同点となる。以後、両者気迫のプレーが続くが、福井県が一枚上手で、鹿児島県の逆転を許さず、ジャンプサーブや強打スパイクで連続得点を重ねて、25-17で勝利し、二連覇をおさめ、監督は胴上げで宙に舞った。

4. 大会の結果；優勝 福井県、準優勝 鹿児島県、3位 横浜市

5. 次年度の開催について

令和7年度の全国障害者スポーツ大会は滋賀県において開催される。身体・知的・精神のバレーボール競技は3会場に分かれて実施され、精神障害者バレーボール競技は草津市民体育館において令和7年10月25日（土）～26日（日）開催される。なお、リハーサル大会は令和7年5月24日（土）に前述の同会場で開催予定であり、近畿ブロック予選大会を兼ねる。

6. 大会主催者・関係者との意見交換の状況や感想

①佐賀県県庁担当者

- ・令和6年全国大会で優勝した福井県に、今年、優勝カップ返還時に渡す優勝カップレプリカの名称が「会長杯」となっていることが判明したが、なぜ「会長」なのか経緯は不明。
 - ・競技補助員（バレーボール部高校生の線審等）協力を佐賀県庁が学校と人数調整したが難航した。学校の部活を熟知しているバレーボール協会が主になって調整してもらった方がベターだと思った。
- と佐賀県庁の弁。

②佐賀県バレーボール協会

- ・競技実施要領に「選手のソックスを揃えること」と明記してある。大会当日にソックス

の相違が見られたチームには「明日の試合は揃えること」と審判から指導する、と大会前にバレーボール協会内で確認をした。実際、大会初日は、ほとんどのチームのソックスが揃っておらず、審判から「翌日にはそろえてくるように」「このままでは出場停止になる」と指導をしたが、「持ち合わせていない」「買いに行けなかった」「買いに行ったが売っていなかった」という理由で、翌日も揃っていないまま出場したチームが多数見られた(7チーム中改善したのは3チームのみ)。本来は「服装は揃える」ことが規則であるため、揃っていないチームは出場できない。今後は、規則を遵守していただくよう、県事務局からもチームの意識向上と周知を事前から適切にお願いしたい。

- ・リハーサル大会前に県庁との文書のやり取りが円滑にいかず、方法を改善したことで、本大会では比較的スムーズにできた。
- ・障害者スポーツに熟知していない県庁とバレーボール協会。もっとこの分野での留意点や有益な情報をやり取りできる環境が必要。
- ・精神障害の特性等に関する事前講習を、運営スタッフに研修する場があればよかった。

7. その他、全体の感想

①競技に関して

- ・競技レベルは近年においても向上し続けている。各チームが日々、研究・研鑽していると思われる。
- ・服装について。ソックス統一問題が浮上。今後は大会前の参加案内時から各チームに周知が必要と思われる。なお、身体・知的もソックスに関しては同様の実態が見られた、とのこと。
- ・近年、コンポジションシートに男女別の記載欄がなく、コートに入る選手の男女確認が不十分であったことから、佐賀大会から記載欄設定を徹底してもらった。令和7年についても滋賀県バレーボール協会に「コンポジションシートは、男女別の記載欄を必ず設けてほしい」と要請した。

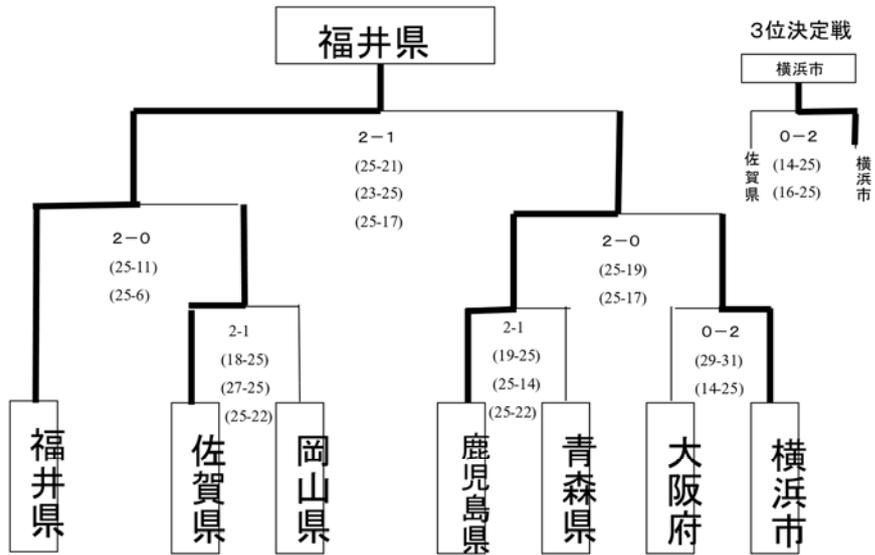
②運営に関して

- ・会場体育館は2階に観覧席・観覧スペースがなく、2階廊下（通路）で観覧する環境にあったが、大会2日目は、試合コートが2面から1面になったため、試合フロアに余裕ができ、観客用の観覧席が試合フロアに設けられた。
- ・今回、佐賀県庁の健康増進方針で「敷地内に喫煙コーナーは設けない」となった。出場チームから表立った不満は聞かなかったが、実際、駐車場の横で喫煙する選手もいた。精神障害者は喫煙率が高いがゆえ、規則破りの喫煙状況があるなら、いっそのこと喫煙コーナーを設けて方がよかったのでは、と思った。

③その他

- ・今回、佐賀県庁の発案で試合の生配信が行われた。事後にもyoutube視聴ができるとのことで、好評になると思われる。

第23回全国障害者スポーツ大会バレーボール競技(精神障害)
R6.10.26-27 (交流戦は記載せず)



3. 資料

1) 全スポチラシ

① 手帳推進チラシ

「障害者」スポーツの全国的な祭典（全スポ）

全国障害者スポーツ大会や予選会の参加資格は主に精神障害者保健福祉手帳で確認をします。

障害者手帳

全スポ出るなら・・・手帳を取ろう！

- 大会申し込み時期と手帳の更新時期が重なることがあります。手帳の更新は早めに手続きを始めましょう。手帳の内容をコピーしておくに役に立ちます。



- 全国障害者スポーツ大会（ブロック予選大会も含む）は、住民票が置かれている都道府県・指定都市のチームで参加ができます。あるいは通所している社会福祉施設（社会福祉法・障害者総合支援法に規定されていること）のある都道府県・指定都市のチームでも参加は可能です。



【全スポについて】

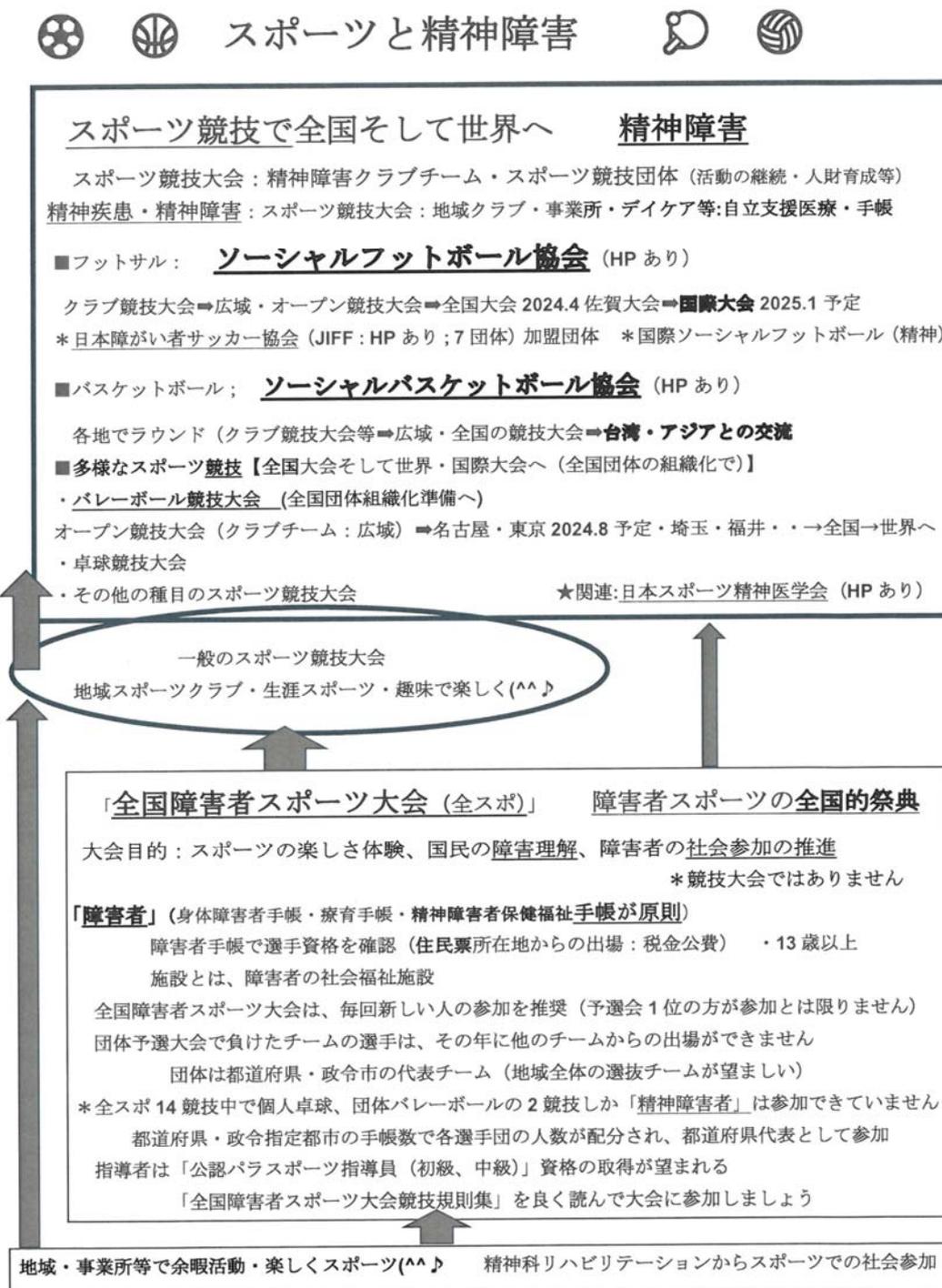
毎年春に全国障害者スポーツ大会競技規則集が発行されており、ルールや参加資格・規約など最新版の情報が記載されています。

例えば「参加できるのはその年4月1日現在13歳以上の者」「団体競技の場合、ブロック予選大会で負けたチームの選手はその後にブロック優勝したチームへ移籍しても、その年の全国大会には出場できない」など、意外に知らないことが記載されているので一度読んでみましょう。選手はもとより、指導者も必携内容です。

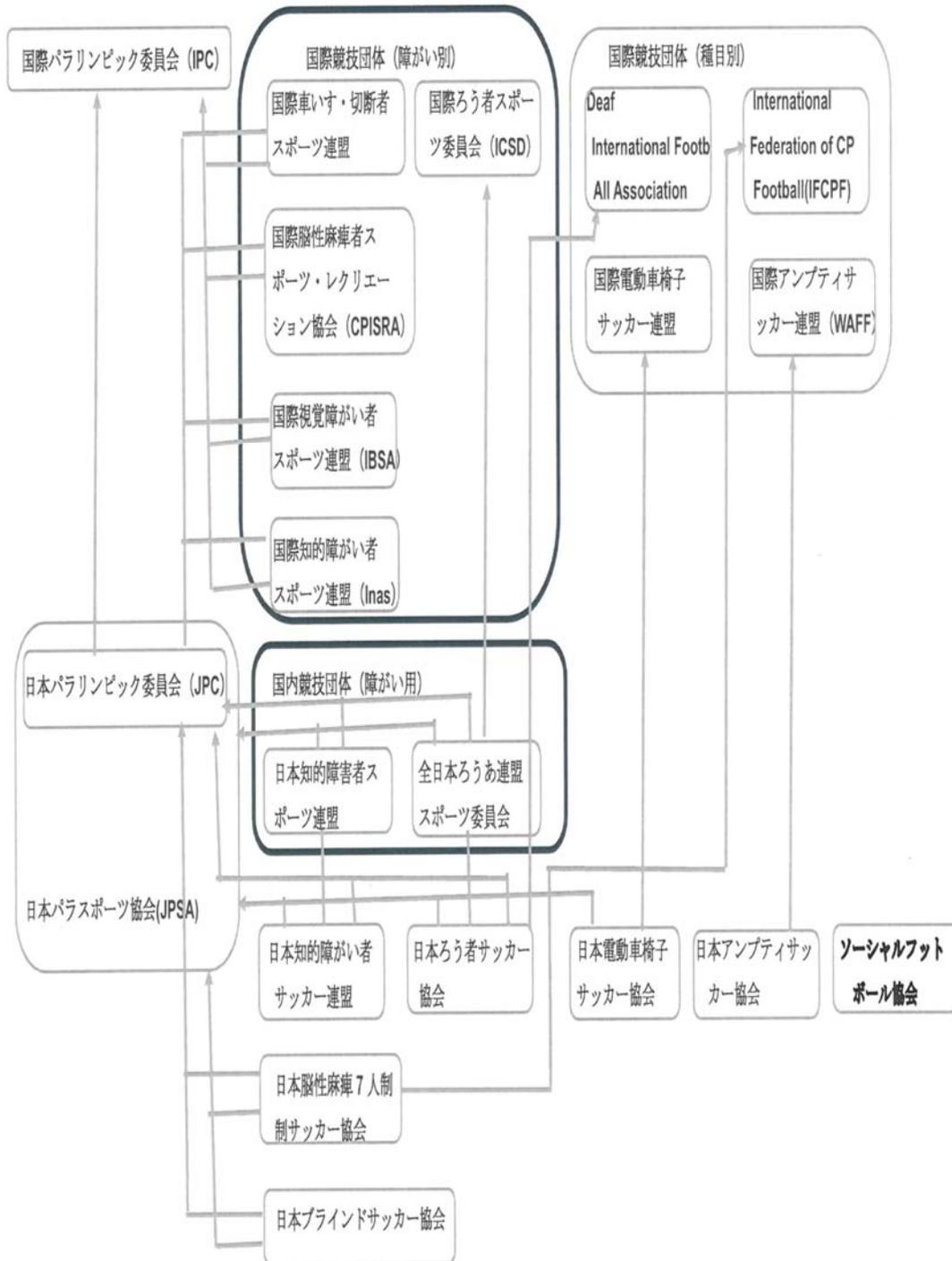
精神障害者スポーツにおける精神障害者保健福祉手帳取得促進プロジェクト
公益社団法人 日本精神保健福祉連盟
精神障害者スポーツ推進委員会 TEL 03-5232-3308
((公財) 日本パラスポーツ協会登録 統括競技団体)



② スポーツと精神障害 全体図



障がい別・種目別国際競技団体等との関係



2) 第23回 全国障害者スポーツ大会団体競技バレーボール精神障害者

ブロック地区予選会開催結果

ブロック	開催地	開催日・会場	優勝	準優勝	3位
北海道・東北	福島県	令和6年6月23日(日) 猪苗代町総合体育館「カメリーナ」	青森県	秋田県	仙台市
関東	群馬県	令和6年5月12日(日) ALSOK ぐんまアリーナ	横浜市	東京都	神奈川県
北信越・東海	石川県	令和6年6月8日(土)～6月9日(日) 小松市末広体育館(義経アリーナ)	福井県	長野県	三重県
近畿	滋賀県	令和6年6月15日(土) 滋賀県草津市総合体育館	大阪府	京都市	
中国・四国	徳島県	令和6年5月18日(土)～19日(日) 鳴門・大塚スポーツパーク アミノバリューホール	岡山県	広島市	山口県
九州	佐賀県	令和6年6月8日(土)～9日(日) 小城市芦刈文化体育館	鹿児島県	福岡県	福岡市

3) 日本精神保健福祉連盟 精神障がい者スポーツ推進委員会 (2025年. 5月まで)

2025. 3. 10 現在

相談役	氏名	所属

委員	氏名	所属
委員長・連盟 (連盟理事)	高畑 隆	公益社団法人 日本精神保健福祉連盟 理事
委員・連盟 (連盟正会員役員)	草地 仁史	一般社団法人 日本精神科看護協会 業 務執行理事 政策企画局局长
委員・連盟 (連盟正会員事業担当)	吉田 太郎	公益社団法人 日本精神保健福祉士協 会・災害対策委員
委員・競技団体 (JSFA 日本ソーシャルフ ットボール協会参与)	井上 誠士郎	北 25 条メンタルクリニック あいさに
委員・競技団体 (JSFA 日本ソーシャルフ ットボール協会相談役)	岡村 武彦	医療法人 大阪精神医学研究所 新阿武 山病院 院長
委員・①競技団体 (JSFA 日本ソーシャル フットボール協会理事長) ②関係団体 (日本スポーツ精神医 学会理事)	佐々 毅	医療法人社団宙麦会 ひだクリニック お台場 院長
委員事務局長・競技団体 (JSFA 日本ソー シャルフットボール協会総務)	瀬川 聖美	社会福祉法人 本郷の森 理事長
委員・競技団体 (JSBA 日本ソーシャルバ スケットボール協会: 会長)	鎗田 英樹	帝京平成大学 健康医療スポーツ学部 リハビリテーション学科 准教授
委員・関係団体 (作業療法士協会) (JSFA 日本ソーシャルフットボール協 会副理事長 (広報))	古賀 誠	作業療法士協会・スポーツ精神委員 昭和大学保健医療学部 リハビリテー ション学科
委員・競技団体準備 (バレーボール精神)	坂井 一也	学校法人名古屋石田学園 星城大学リ ハビリテーション学部 教授
委員・競技団体準備 (バレーボール精神)	館山 久子	青森公共職業安定所 専門援助部門
委員	河本 次生	埼玉県立精神保健福祉センター 社会復帰部 復職支援担当
委員	田所 淳子	高知県安芸福祉保健所 健康障害課 主 任
委員	水島 仁	国家公務員共済組合連合会 立川病院

令和6年度 精神障害者スポーツ大会開催事業 報告書

発行日 令和7年3月

発行者 公益社団法人日本精神保健福祉連盟

会長 鹿島晴雄

発行所 公益社団法人日本精神保健福祉連盟

〒108-8554 東京都港区芝浦3-15-14

日精協会館内

TEL 03-5232-3308 FAX 03-5232-3309

